

## マルマ語の音声に関する考察\*

藤原 敬介

### 0 はじめに

本稿ではマルマ語 (Marma) の音声学および音韻論をあつかう。その主たる目的はマルマ語音素表記を確定させることである。さらに、共時的分析からえられた結果をビルマ文語と比較することにより、マルマ語に特徴的な点を記述する。

本稿の構成は以下のとおりである。1 ではマルマ語について概況をのべ、先行研究についてふれる。2 ではマルマ語の音声を共時的に記述し、マルマ語の音素表記を確定させることをめざす。3 では筆者によるマルマ語音素表記とビルマ文語との対応関係を見る。4 で本稿をまとめる。附録 1 としてビルマ文字とローマ字転写の対応表、附録 2 としてマルマ語基礎語彙 1000 項目をつけた。なお本稿で使用する記号・略号については本文末尾の記号・略号一覧を参照。

### 1 マルマ語について

#### 1.1 マルマ人とは

マルマ人 (Marma/Mranma) はバングラデシュ人民共和国・チッタゴン丘陵 (Chittagong Hill Tracts) を中心とした地域に居住するチベット・ビルマ系民族であり、その大半は仏教徒である。バングラデシュにおけるマルマ人の人口は D. BERNOT(1958: 273) によると 90000 人、BBS(2002: 143) によると 154216 人、GRIMES(2003) によると 231000 人<sup>注1</sup>である。

マルマ人は隣接するミャンマー (ビルマ) 連邦・ラカイン (アラカン) 州に居住するラカイン人 (Rakhine/Rakhain) とちかい関係にある。バングラデシュにもラカイン人は確認されている。バングラデシュにおけるラカイン人の人口は BBS(2002) によると 16932 人、GRIMES(2003) によると 185000 人<sup>注2</sup>である<sup>注3</sup>。

---

\* 主要語句: バングラデシュのマルマ語の音声学、音韻論、基礎語彙、ビルマ文語との対応。

<sup>注1</sup> GRIMES(2003) で “Burmese” とされているものをマルマ人と解釈した。

<sup>注2</sup> GRIMES(2003) で “Arakanese” とされているものをラカイン人と解釈した。

<sup>注3</sup> マルマ人とラカイン人は形質人類学的にはほぼおなじ民族であるといってよく、生活習慣や文化も非常によくにている。しかし両者には決定的なちがいがあある。それは焼

## 1.2 マルマ語とは

### 1.2.1 概況

マルマ語は主としてマルマ人によってはなされている言語である。チッタゴン丘陵のうち、特にバンドルバン県 (Bandarban) においては少数民族のあいだで共通語 (lingua franca) としても使用されている。チャック人 (Cak)、キャン人 (Khyang) などはそれぞれの母語以外にマルマ語をしゃべっていることがおおい。チャック語<sup>注4</sup>やキャン語<sup>注5</sup>にはマルマ語からの借用語がおおくみられる。

### 1.2.2 系統

マルマ語とちかい言語にラカイン人のビルマ語アラカン方言 (ラカイン語) がある。MATISOFF(1996) は L. BERNOT(1966) を根拠にラカインとマルマはおなじであるとし<sup>注6</sup>、マルマ語を SHAFER(1966: 4) によるチベット・ビルマ語派のなかの南ビルマ語群に分類している。

大野 (1969: 86) は先行研究を比較し「東パキスタンのビルマ方言と“アラカン方言”とが全く同じであると断定することはできない」とのべ、「私のいう『ビルマ語南西方言』群中のアキャブ・ムロハウン方言 (中略) 等と並列した位置にあると言うべきであろう」と主張する。

---

き畑をおこなうかいなかという点である。マルマ人は山の民であり焼き畑をおこなう。他方、ラカイン人は海の民であり、焼き畑をおこなわない。チッタゴン丘陵の少数民族は焼き畑をみずからの民族意識のよりどころのひとつとしているので、このちがいは重要である。

ところでミャンマーでマルマというと、それはマルマ・ジー (Mranmagyi) のことだと理解される (藪 (1993) にもマルマ語のビルマ語名として *mərəma(ji)* という表記がみられる)。マルマ・ジーとは、バングラデシュではボルア (Barua/Baruwa) とよばれるバングラ人仏教徒のビルマ語における名称である。しかしマルマとマルマ・ジーとはまったく別物であり、はなす言語もことなる。マルマ・ジーもボルアも、ビルマ語やバングラ語ではそれぞれ「おおきい」という意味をもつ点で共通しているところが興味ぶかい。

<sup>注4</sup> チベット・ビルマ語派のうちレイ語群に属するとされている言語。詳細は藤原 (2002) を参照。

<sup>注5</sup> チベット・ビルマ語派のうちチン系に属するとされている言語。D. BERNOT & L. BERNOT(1958) に基礎語彙 400 語ほどがみられる。

<sup>注6</sup> «Les Cak d'Arakan et le Cak du Pakistan entretiennent d'ailleurs des relations épistolaires en utilisant l'arakanais, appelé *marma* dans cette région, qu'ils parlent, lisent et écrivent.» (L. BERNOT 1966: 67; 強調は筆者による)

しかしこの部分をよむかぎり「手紙のやりとりができる」とあるだけなので、マルマ語とビルマ語アラカン方言がきいておなじであるかどうかはわからないのではないだろうか。

藪(1993: 346)は「マルマ語(方言)は、ビルマ語の一方言であるアラカン方言の変種、ないしは、その下位方言とみるのが妥当であろう」とのべている<sup>注7</sup>。

OKELL(1995)はマルマ語とビルマ語アラカン方言は音韻論的にはほぼおなじであるとのべている<sup>注8</sup>。

以上、論者によってこまかいちがいはあるものの、マルマ語はビルマ語の方言のひとつであり、なかでもアラカン方言とちかい関係にあり、チベット・ビルマ語派、ロロ・ビルマ語群、ビルマ語支に属する言語とみてよいであろう。

### 1.3 先行研究

マルマ語そのものの研究については KONOW(1903)をその嚆矢とする<sup>注9</sup>。その後 D. BERNOT(1958)にビルマ語とマルマ語の比較音声学が発表された<sup>注10</sup>。D. BERNOT(1966)にマルマ語のむかしばなしが一編みられるほか、KAUFFMANN & LÖFFLER(1959)と LÖFFLER(1959)にはマルマ人のあそびについてマルマ語の名称とともにしるされている。LÖFFLER(1959)にはマルマ語とビルマ語の対応について簡単な説明もみられる。

八木(1964)にはマルマ語の語彙について簡単な記述がみられる。

藪(1993)は先行研究の簡潔なまとめとなっている。

---

<sup>注7</sup> ただし藪(1980: 164-165)は「ビルマ語にきわめて近い諸特徴を備えている言語に(中略)マルマ語(モグ語) Marma(Mogh)があるが、これらは現代ビルマ語の方言とはみとめられない」とのべている。

<sup>注8</sup> “Marma, for example, the only one that has been documented (D. BERNOT 1957), seems to be phonologically identical with Sit-twe Arakanese except for the use of /gy, ky, khy/ for Sit-twe /j, c, ch/. They are worth mentioning separately, however, as informants recognise them as distinct groups.” (OKELL 1995: 3; 強調は筆者による)

<sup>注9</sup> ただし KONOW(1903)はマルマ語とはいわず、Maghi(モグ語)とよんでいる。Maghiは Magh, Mugh, Mogh ともいわれることがある。いずれもバングラ語で「海賊」を意味し、マルマ人・ラカイン人をさす。OKELL(1995)による記述もあげておく。

“The ‘Mugs’ have on occasion been listed as a separate race or tribe but in fact the term is only a name used in former times for the Arakanese by their neighbours to the west and by Europeans.” (OKELL 1995: 3; 参考文献への言及は省略)

<sup>注10</sup> D. BERNOT(1958)の材料は1951年から1952年にかけて当時の東パキスタン・チッタゴン丘陵のバンドルバン地方を中心になされた人類学的調査の過程でえられたものである。のちにこの調査の結果は、1959年から1960年にかけておこなわれた二回目の調査の結果とともに L. BERNOT(1967a)にまとめられた。L. BERNOT(1967a: 11)によると4000語ほどのマルマ語語彙があつめられたという。これらの語彙については D. BERNOT & L. BERNOT(1958)にキャン語と対照するかたちで一部が発表されているほかには、まとまったかたちでは発表されていないようである。

バングラデシュではランガマティ (Rangamati) やバンドルバン (Bandarban) にある少数民族研究所 (Tribal Cultural Institute) から少数民族にかかわる研究書が出版されている。なかにはマルマ語に関するものも数点確認されている。それらはいずれもバングラ文字でかかれており、CHAKMA(1984<sup>2</sup>)、PRU(1990) はマルマ語の簡単な教科書、PRU(1993) はマルマ語の歌をあつめたものとなっている。

ビルマ語アラカン方言の記述のうち、おもなものには D. BERNOT(1965)<sup>注11</sup>や OKELL(1995) がある。しかし本稿はアラカン方言とマルマ語の比較を直接の目的とはしないので、詳細は省略する<sup>注12</sup>。

#### 1.4 話者について

本稿でのマルマ語は、筆者がダカ<sup>注13</sup>でオン＝チャイン＝ヌンさん (on cháin nún)<sup>注14</sup>からききとったものである。資料としては東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所編 (1966) を主として使用し、4000 語程度の基礎語彙を収集した。

2003 年現在、オン＝チャイン＝ヌンさんはダカ大学の学生である。マルマ語のほかにバングラ語チッタゴン方言、標準バングラ語、イングランド語に堪能であり、ビルマ文字もしている。オン＝チャイン＝ヌンさんはチッタゴン丘陵・ラージョストリ (Rajsthal) の出身である。本稿であつかうマルマ語は、マルマ語ラージョストリ方言ということになる。マルマ人の中心地・バンドルバン地方のマルマ語と、本稿であつかうラージョストリ地方のマルマ語とでどの程度の方言差があるか、くわしいことはわかっていない。

ききとりの媒介言語にはバングラ語を基本とし、必要におうじてイングランド語も使用した。

## 2 マルマ語共時音韻論

### 2.1 音節構造

マルマ語の音節構造を頭子音 (C)<sup>注15</sup>、主母音 (V)、末子音 (F)、声調 (T) をもちいてあらわせば、(1) のようにかくことができる。

<sup>注11</sup> D. BERNOT(1965) は “Arakanese”(アラカン語) とよんでいる。

<sup>注12</sup> ビルマ語アラカン方言 (ラカイン語) の先行研究については大野 (1969) にくわしい。

<sup>注13</sup> 日本語ではダッカ (Dacca) とかかれることがおおい。しかし本稿ではバングラ語での発音によりちかいダカ (Dhaka) と表記する。

<sup>注14</sup> 藤原 (2002) では「オンチャイン＝ヌー」さんとかいていた。しかし「ヌー」というのはバングラ語の証明書にかいてある名前で、よそむきにつかう名前だそうである。マルマ語での本当の名前は「ヌン」だそうである。

<sup>注15</sup> 複子音もふくむ。

(1) (C)V(F)/T

以下、具体的に音声を記述する。

## 2.2 頭子音

### 2.2.1 単子音

#### 2.2.1.1 先行研究

(2) に D. BERNOT(1958: 277) によるマルマ語の単子音をしめす。これは音素表記である。

(2) D. BERNOT(1958)

		同 音	齒 間音 <sup>注16</sup>	齒 音	硬 口蓋音	軟 口蓋音	舌 門音
閉鎖音	無声無気	p		t		k	(ʔ) <sup>注17</sup>
	無声有気	ph		th		kh	
	有聲	b		d		g	
破擦音	無声無気				c		
	無声有気				ch		
	有聲				j		
摩擦音	無声無気		θ		ʃ		
	無声有気						h
	有聲		[ð] <sup>注18</sup>				
鼻音	無声	mh		nh	ñh	ɳh	
	有聲	m		n	ɲ	ɳ	
流音	無声			rh, lh			
	有聲			r, l			
半子音	有聲	w			y		

#### 2.2.1.2 筆者の観察

(3) に筆者の観察によるマルマ語の単子音をしめす。これは音素表記である。

<sup>注16</sup> D. BERNOT(1958: 277) の表中では齒間音とはかかれていない。それは単に余白の都合であるとおもわれるので、ここでは齒間音としていれておいた。

<sup>注17</sup> 末子音としてののみとめられる。

<sup>注18</sup> [ð] は/θ/の異音としてののみあらわれる。

(3) 筆者の観察 (音素表記)

		唇音	唇音	歯間音	歯音	硬口蓋音	軟口蓋音	声門音
閉鎖音	無声無気	p			t		k	
	無声有気	ph			th		kh	
	有声無気	b			d		g	
	(有声有気)	(bh)					(gh)	
破擦音	無声無気					c		
	無声有気					ch		
	有声					j		
摩擦音	無声		(f)	θ	(s)	f		h
鼻音	無声	hm			hn		hŋ	
	有声	m			n		ŋ	
流音	無声				hl, hr			
	有声				l, r			
半子音		w				y		

D. BERNOT(1958) の記述と筆者の観察とを比較してことなる点をまとめると (4) のようになる<sup>注19</sup>。

- (4) a. D. BERNOT(1958) は音素/ñ, hñ/をたてるのに対し、筆者はこれをみとめない。
- b. 摩擦音について D. BERNOT(1958) は音声的に [ð] をみとめる。しかし筆者の観察によると [ð] はみとめられない。さらに筆者の観察では、音素としての地位をえているとはいえないが、音声的には [s] や [f] が一部の借用語に確認される。

各頭子音の具体的調音点、音価は以下のとおりである。

### 2.2.1.3 閉鎖音

- (5) a. /p/ [p] 無声無気両唇閉鎖音  
/páɪŋ/ [p<sup>h</sup>éɪŋ] 「花」
- b. /ph/ [ph] 無声有気両唇閉鎖音  
/pháɪŋ/ [p<sup>h</sup>éɪŋ] 「つかまえる」

<sup>注19</sup> (4) にしめすちがいはバンドルバンとラージョストリの方音差である可能性もある。

- c. /b/ [b] 有声無氣両唇閉鎖音  
/baɪŋ/ [bēɪŋ] 「銀行」 < Eng. bank?
- d. /bh/ [b<sup>h</sup>] 有声有氣両唇閉鎖音  
bh は音素としての地位をえているとはいえない。語例にしめすように、ビルマ文字の名称としてあらわれるだけである。これが有声有氣音で発音されるのはバングラ語の影響ではないかとおもわれる<sup>注20</sup>。  
/bhă-gúŋ-mă/ [b<sup>h</sup>ě gúŋ mě] 「ビルマ文字の〈bh〉の名称」
- (6) a. /t/ [t] 無声無氣歯茎閉鎖音  
/taiŋ/ [tēɪŋ] 「安い」
- b. /th/ [t<sup>h</sup>] 無声有氣歯茎閉鎖音  
/tháɪŋ/ [t<sup>h</sup>éɪŋ] 「かつぐ」
- c. /d/ [d] 有声無氣歯茎閉鎖音  
/daiŋ/ [dēɪŋ] 「罰」
- (7) a. /k/ [k] 無声無氣軟口蓋閉鎖音  
/kóŋ/ [kóŋ] 「よい」
- b. /kh/ [k<sup>h</sup>] 無声有氣軟口蓋閉鎖音  
/khon/ [k<sup>h</sup>on] 「屋根」
- c. /g/ [g] 有声無氣軟口蓋閉鎖音  
/góŋ/ [góŋ] 「指導者」
- d. /gh/ [g<sup>h</sup>] 有声有氣軟口蓋閉鎖音  
gh は音素としての地位をえているとはいえない。語例にしめすように、ビルマ文字の名称としてあらわれるだけである。これが有声有氣音で発音されるのはバングラ語の影響ではないかとおもわれる。  
/ghă-grí/ [g<sup>h</sup>ě grí] 「ビルマ文字の〈gh〉の名称」

#### 2.2.1.4 破擦音

- (8) a. /c/ [t̪] 無声無氣前部硬口蓋破擦音  
/cá/ [t̪é] 「たべる」
- b. /ch/ [t̪<sup>h</sup>] 無声有氣前部硬口蓋破擦音  
/chá/ [t̪<sup>h</sup>é] 「塩」

<sup>注20</sup> 同様に/gh/も確認されている。しかし〈dh〉や〈jh〉については有声有氣音にならず、単に有声無氣音で発音される。

c. /j/ [ɟ] 有声無気前部硬口蓋破擦音

/ja/ [ɟe] 「なに」

#### 2.2.1.5 摩擦音

(9) /f/ [f] 無声唇齒摩擦音

f は音素としての地位をえているとはいえない。つぎにしめす例にしか確認されていない<sup>注21</sup>。

/fa.da/ [fe.de] 「神父」 < Eng. father

(10) /θ/ [θ] 無声齒間摩擦音<sup>注22</sup>

/θa/ [θe] 「心地よい」

/ba.θa/ [be.θe] 「言語」 < Pali<sup>注23</sup> bhāsā

(11) a. /s/ [s] 無声齒茎摩擦音

s は音素としての地位をえているとはいえない。語例はきわめてすくなく、いずれも借用語である。

/sij.na.mă/ [sij ne.mě] 「映画」 < Eng. cinema

/se.káij/ [se.keij] 「秒」 < Eng. second

b. /ʃ/ [ʃ] 無声前部硬口蓋摩擦音

/ʃa/ [ʃe] 「舌」

(12) /h/ [h] 無声声門摩擦音

/há/ [hé] 「首飾り」

#### 2.2.1.6 鼻音

ビルマ語と比較してマルマ語に特徴的な点は、マルマ語には硬口蓋鼻音が確認されないことである<sup>注24</sup>。

---

<sup>注21</sup> 借用語で本来的に f の音がある場合、マルマ語では [p<sup>h</sup>] でとりいれるほうが普通であるとおもわれる。

(i) /phə.líj/ [p<sup>h</sup>əlíj] 「映画」 < Bangla philm < Eng. film

<sup>注22</sup> 対応する有声音は確認されていない。藪 (1993) は無声齒間閉鎖音 [t̪] ないし無声齒間破擦音 [t̪ʰ] ではないかと推定する。

<sup>注23</sup> 本稿におけるパーリ語形式は DAVIDS & STEDE (1921-1925) による。

<sup>注24</sup> ビルマ語で硬口蓋鼻音 /ɲ/ がでる場合、マルマ語では一般には口蓋化軟口蓋鼻音 /ɲy/ で対応している。



- (13) a. /m/ [m] 有声両唇鼻音  
/maiŋ/ [mẽiŋ] 「怒り」  
b. /hm/ [ɱm] 無声両唇鼻音  
/hmaiŋ/ [ɱmẽiŋ] 「鏡」
- (14) a. /n/ [n] 有声齒茎鼻音  
/náŋ/ [nẽŋ] 「踏む」  
b. /hn/ [ɲn] 無声齒茎鼻音  
/hnáŋ/ [ɲnẽŋ] 「霧」
- (15) a. /ŋ/ [ŋ] 有声軟口蓋鼻音  
/ŋá/ [ŋẽ] 「魚」  
b. /hŋ/ [ɲŋ] 無声軟口蓋鼻音  
/hŋá/ [ɲŋẽ] 「料金を払う」

#### 2.2.1.7 流音

- (16) a. /l/ [l] 有声齒茎側面音  
/lǎ/ [lẽ] 「月」  
b. /hl/ [ɭ] 無声齒茎側面音  
/hlǎ/ [ɭlẽ] 「うつくしい」
- (17) a. /r/ [ɾ]~[ɹ] 有声齒茎はじき音<sup>注25</sup>  
/ra/ [ɾe]~[ɹe] 「百」  
b. /hr/ [ɻ]~[ɹ̥] 無声齒茎はじき音<sup>注26</sup>  
/hra/ [ɻe]~[ɹ̥e] 「探す」

- 
- (i) a. /ŋya/ [ŋ<sup>h</sup>e] 「右」: WrB <ña>  
b. /ə-ŋyo/ [əŋ<sup>h</sup>o] 「緑の」: WrB <a-ño> 「茶色」  
ただし母音/i/が後続する場合には軟口蓋鼻音で対応する。
- (ii) a. /ŋiŋ/ [ŋiŋ] 「弟」: WrB <ñii>, D. BERNOT(1958: 286) [ñiñ]  
b. /ŋiŋ/ [ŋiŋ] 「平らな」: WrB <ñii-ña>

音韻論的には/ŋy/を軟口蓋鼻音/ɲ/とみなす立場もありうる。しかし本稿では/ŋy/とみなす。その根拠は、/ŋy/をみとめるならば、両唇音と軟口蓋音については閉鎖音にも鼻音にも Cy がみられることになり、より体系的になるからである。もしも/ŋy/をみとめないとする、体系にこながでる。くわしくは2.2.2.2を参照。

<sup>注25</sup> 比較的摩擦性があることもある。

<sup>注26</sup> 比較的摩擦性があることもある。

### 2.2.1.8 接近音

- (18) a. /w/ [w] 両唇軟口蓋接近音  
/wa/ [weː] 「黄色い」  
b. /y/ [j] 硬口蓋接近音  
/ya/ [jeː] 「焼き畑」

### 2.2.2 複子音

複子音には Cr, Cy, Cw, Crw, Cyw となるものが確認されている<sup>注27</sup>。

#### 2.2.2.1 Cr

Cr には /pr, phr, br, kr, khr, gr, mr, hmr, ɣr/ となるものが確認されている。

- (19) a. pr: /pri/ [pɾiː] 「ほどける」  
b. phr: /phri/ [pʰɾiː] 「ほどく」<sup>注28</sup>  
c. br: /brí/ [brí] 「はしる」  
  
(20) a. kr: /krá/ [kɾé] 「わかれる」  
b. khr: /khrá/ [kʰɾé] 「わける」  
c. gr: /grú/ [grú] 「野生の鳩」  
  
(21) a. mr: /mrǎŋ/ [mrǎŋ] 「上昇する」  
b. hmr: /hmrǎŋ/ [hm̩rǎŋ] 「上昇させる」  
  
(22) ɣr: /ɣráŋ/ [ɣrǎŋ] 「断る」

#### 2.2.2.2 Cy

Cy には /py, phy, by, ky, khy, gy, my, hmy, ɣy, hɣy/ となるものが確認されている。

- (23) a. py: /pyɔɪʔ/ [pʲɔɪʔ] 「絞まる」  
b. phy: /phyɔɪʔ/ [pʰɔɪʔ]<sup>注29</sup> 「絞める」

<sup>注27</sup> Cl は確認されない。借用語のなかで本来的には Cl の連続がある場合、マルマ語では Cal で借用される。

(i) /gəɭɔʔ/ [gəɭɔʔ] 「グラス」 < Eng. glass

<sup>注28</sup> 動詞の自他を気音の有無によって区別するくみあわせがおおくみられる。

<sup>注29</sup> 調音の連続性からいえば [pʰɔɪʔ] と表記するのが適当ではあるが、本稿では音素表記に準じた音声表記としている。Chy、Chw の他の例についても同様の立場をとる。

- c. by: /byóɪŋ/ [bʰóɪŋ] 「アオサギ」
- (24) a. ky: /kyaiŋ/ [kʰéɪŋ] 「のこる」  
 b. khy: /khyaiŋ/ [kʰiɛɪŋ] 「のこす」  
 c. gy: /gyaŋ/ [gʰéɪŋ] 「独楽」
- (25) a. my: /myá/ [mʰé] 「ふえる」  
 b. hmy: /hmyá/ [mʰmʰé] 「釣る」
- (26) a. ɲy<sup>注30</sup>: /ɲya/ [ɲʰe] 「右」  
 b. hɲy: /hɲyú/ [ɲʰú] 「しおれる」

### 2.2.2.3 Cw

Cw には /pw, phw, bw, tw, thw, dw, cw, chw, jw, kw, khw, gw, θw, ʃw, mw, hmw, nw, hnw, ɲw, rw, hrw/ となるものが確認されている。

- (27) a. pw: /pwóŋ/ [pʰóŋ] 「咲く」  
 b. phw: /phwóŋ/ [pʰwóŋ] 「咲かせる」  
 c. bw: /bwě/ [bʰě] 「本」 < Bangla boi
- (28) a. tw: /twóŋ/ [tʰóŋ] 「おおきな穴」  
 b. thw: /thwóŋ/ [tʰwóŋ] 「刻む」  
 c. dw: /rə-dwóŋ/ [rədwóŋ] 「井戸」: /rə/ < /ri/ 「水」、/dwóŋ/ < /twóŋ/ 「深い」
- (29) a. cw: /cwáɪŋ/ [tʰéɪŋ] 「あきらめる」  
 b. chw: /chwáɪŋ/ [tʰwéɪŋ] 「僧の食事」  
 c. jw: /jwáɪŋ/ [dʰéɪŋ] 「匙」
- (30) a. kw: /kwé/ [kʰé] 「われる」  
 b. khw: /khwé/ [kʰwé] 「わる」  
 c. gw: /gwáɪŋ/ [gʰéɪŋ] 「綿」
- (31) a. θw: /θwí/ [θʰí] 「血」  
 b. ʃw: /ʃwe/ [ʃʰe] 「金」
- (32) a. mw: /mwaiʔ/ [mʰwɛʔ]~[mʰɛʔ] 「飢える」

<sup>注30</sup> 2.2.1.6 の脚注 24 でのべたように、/ɲy/をみとめないと Cy の体系にあながいて不自然となるので、本稿では/ɲy/と/hɲy/をみとめる。

b. hmw:/hmwiŋ/ [m̥m̥w̥iŋ] 「かきまぜる」

(33) a. nw:/nwá/ [n̥w̥é] 「牛」<sup>注31</sup>

b. hnw:/hnwiŋ/ [n̥n̥w̥iŋ] 「剥ぐ」

(34) a. ŋw:/ŋwe/ [ŋ̥w̥e] 「銀」<sup>注32</sup>

b. hŋw: 未確認<sup>注33</sup>

(35) a. rw:/rwa/ [r̥w̥e] 「村」

b. hrw:/hrwá/ [r̥w̥é] 「のこぎり」

#### 2.2.2.4 Crw

Crw には/prw, krw, khrw, grw/となるものが確認されている。

(36) a. prw:/prwiŋ/ [p̥r̥w̥iŋ] 「小芋」<sup>注34</sup>

b. phrw: 未確認

c. brw: 未確認

(37) a. krw:/krwɔʔ/ [k̥r̥w̥ɔʔ] 「鼠」

b. khrw:/khrwi/ [k̥h̥r̥w̥i] 「(薪を) 切る」<sup>注35</sup>

c. grw:/hnánj-grwaiʔ/ [n̥n̥éŋ ɡr̥w̥eɪʔ] 「蛭の一種」<sup>注36</sup>: /hnánj/ 「露」、/grwaiʔ/ < /krwaiʔ/ 「蛭」

#### 2.2.2.5 Cyw

Cyw には/kyw, khyw, gyw/となるものが確認されている。

(38) a. kyw:/kywaiŋ/ [k̥j̥w̥éiŋ] 「奴隸」

b. khyw:/khywé/ [k̥h̥j̥w̥é] 「汗」

c. gyw:/wa\_gywaiʔ/ [w̥e ɡj̥w̥eɪʔ] 「ビルマ暦の七月」<sup>注37</sup>

<sup>注31</sup> nw は「牛」の派生語にしか確認されていない。

<sup>注32</sup> ŋw はこの一例しか確認されていない。

<sup>注33</sup> ビルマ文語にも <hngw> は確認されない。

<sup>注34</sup> prw はこの一例しか確認されていない。

<sup>注35</sup> khrw はこの一例しか確認されていない。

<sup>注36</sup> grw はこの一例しか確認されていない。

<sup>注37</sup> この語は/wa/「持戒期間」と/kywaiʔ/「自由になる」からなるとおもわれる。

## 2.3 主母音

### 2.3.1 単母音

#### 2.3.1.1 先行研究

(39) に D. BERNOT(1958: 285) にしめされた単母音をしめす。これは簡易音声表記であると推定される。

(39) D. BERNOT(1958)

i                      u  
e    (ə)<sup>注38</sup>        o  
                    a        ɔ

#### 2.3.1.2 筆者の観察

(40) に筆者の観察による単母音をしめす。これは結果として D. BERNOT(1958) とおなじものとなっている。ただし個々の単語の具体的音価については、D. BERNOT(1958) と筆者でことなるところがすくなくない。

(40) 筆者の観察 (音素表記)

i                      u  
e    ə        o  
                    a        ɔ

以下、具体的に音声を記述する。単母音のうち開音節で低声調のものはややながめに発音される傾向にある。

(41) /i/ [i] 前舌平唇高狭母音

/pí/ [pí] 「あたえる」

/ŋiŋ/ [ŋiŋ] 「弟」

(42) /e/ [e] 前舌平唇中狭母音<sup>注39</sup>

/be/ [be] 「左」

<sup>注38</sup> D. BERNOT(1958) においてəは独立した母音として説明されてはいない。しかし語例のなかにはでてきている。その分布はビルマ語とほぼおなじである。ただし接頭辞 a- については、ビルマ語形式がə-で表記されていても、対応するマルマ語形式は a-で表記されている。厳密にはこれはおかしいのではないかとおもわれる。くわしくは(48)で後述する。

<sup>注39</sup> 開音節でしかあらわれない。D. BERNOT(1958) も音素としては/e/のみをたてる。具体的音価については「e と ɛ の中間」として、つぎのようにいう。

- (43) /a/ [ɐ] 中舌非円唇低広母音  
 /pá/ [pɐ] 「頬」  
 /páŋ/ [pɐŋ] 「つんぼの」  
 /paʔ/ [pɐʔ] 「かたまりをかぞえる助数詞」

- (44) /u/ [u] 後舌円唇高狭母音<sup>注40</sup>  
 /pú/ [pú] 「虫」  
 /puŋ/ [pūŋ] 「形」

- (45) /o/ [o] 後舌円唇中狭母音<sup>注41</sup>  
 /pǒ/ [pǒ] 「おくる」

- (46) /ɔ/ [ɔ] 後舌円唇中広母音<sup>注42</sup>  
 /pó/ [pó] 「うかぶ」  
 /pón/ [pón] 「あつめる」  
 /pɔʔ/ [pɔʔ] ~ [pɔʔ] 「生える」

- (47) /ə/ [ə] 中舌非円唇中母音<sup>注43</sup>  
 /pə.bá/ [pəbé] 「うすく」

D. BERNOT(1958) は語頭において/a/と/a/を区別せず、いずれも/a/とかいている。しかし両者は (48) にしめすように区別されるものであることに注意する必要がある。

- (48) a. /ə-na/ [ʔəneʔ] 「痛み」: WrB ⟨a-naa⟩  
 b. /a-na/ [ʔəneʔ] 「命令」: WrB ⟨aa-ŋaa⟩ < Pali āṇā 「権力」

---

«en marma le phonème unique qui correspond aux *e* et *ɛ* birmans est d'**aperture intermédiaire entre ces deux derniers** de sorte qu'on peut être tenté de la rapprocher de l'un aussi bien que de l'autre» (D. BERNOT 1958: 284; 強調は筆者による)

<sup>注40</sup> CVʔ の環境ではあらわれない。

<sup>注41</sup> 開音節でしかあらわれない。3.2 の (145) で後述するように、マルマ語の/o/は通時的にはビルマ文語の ⟨o⟩ の第一声調、第三声調と対応する。マルマ語の/o/で第二声調となるものは一部の借用語にかぎられている。

<sup>注42</sup> 特に CVʔ の環境では [ɔ] のようにきこえることがおおい。

<sup>注43</sup> (C)ə.CV(ŋʔ) の環境でしかあらわれない。

## 2.3.2 二重母音

### 2.3.2.1 先行研究

D. BERNOT(1958: 290) にしめされたビルマ文語とマルマ語の対応表を再掲すれば (49)、(50) のようになる。

(49) a. b.é.<sup>注44</sup> a+n/m > m.p.<sup>注45</sup> aŋ [aɛŋ]

b. — a+ñ > — eñ [ɔeñ]

c. — a+ñ > — ɔñ [aɔñ]

d. — i+n/m > — iñ [oiñ], [wiñ]

e. — u+n/m > — uñ [ouñ]

f. — ɔ+n > — oñ [ɔoñ]

g. — o+n > — eñ [ɔeñ]

(50) a. b.é. a+t/p > m.p. aʔ [aɛʔ], [aiʔ]

b. — a+c > — eʔ [ɔeʔ], [ɔiʔ]

c. — a+k > — ɔʔ [aɔʔ]

d. — i+t/p > — iʔ [oiʔ], [wiʔ]

e. — u+t/p > — uʔ [ouʔ]

f. — ɔ+k > — oʔ [ɔoʔ]

g. — o+k > — eʔ [ɔeʔ], [ɔiʔ]

(49)、(50) からわかるように、D. BERNOT(1958) は音声的には二重母音の存在をみとめている。しかし、音韻論的には単母音と末子音のくみあわせであるとかんがえている。

### 2.3.2.2 筆者の観察

二重母音の分布に関しては、D. BERNOT(1958) の記述と筆者の観察はかなりことなる。筆者の観察によると、マルマ語の二重母音には/ai, oi, ɔi, ou/が観察されるのみである。マルマ語の二重母音に特徴的な点は、いずれも原則として閉音節でしかあらわれないということである。(51) に語例をしめす。

<sup>注44</sup> b.é < birman écrit: ビルマ文語。

<sup>注45</sup> m.p. < marma parlé: マルマ口語。

(51) a. /ai/ [ɛi]<sup>注46</sup>

/laiŋ/ [lɛ̃iŋ] 「めくれる」

/laiʔ/ [ɛiʔ] ~ [ɛʔ]<sup>注47</sup> 「運命」

b. /oi/ [oi]<sup>注48</sup>

/loiʔ/ [loiʔ] 「亀」

c. /oi/ [ɔi]<sup>注49</sup>

/loiŋ/ [lɔ̃iŋ] 「うねり」

/loiʔ/ [loiʔ] 「おいかける」

d. /ou/ [ou]

/louʔ/ [louʔ] 「する」

## 2.4 末子音

末子音について D. BERNOT(1958) と筆者とでことなるところはない。筆者の観察によると末子音には (52) にしめす二種類しかない。

(52) a. CVʔ: 音声的には [CVʔ] で実現する。環境によっては緊喉母音がきかれることがある。

b. CVŋ: 音声的には [CṼŋ] で実現する。先行する母音を鼻母音にする。

(53)、(54) に語例をあげる。

<sup>注46</sup> [ɛi] はつぎにしめす一例をのぞき、閉音節でしかあらわれない。

(i) a. ŋə=rɔ̃ ə-wi rɔ̃ŋ mai.

l=PL ために 売 PCL

「わたしたちのために売ってくださいよ」

b. ŋə=rɔ̃ ə-wi louʔ maiʔ.

l=PL ために する PCL

「わたしたちのためにしてくださいよ」

/mai/ と /maiʔ/ は相補分布の関係にある。両者ともに日本語でいえば「よ」のような意味をもつ終助詞である。/maiʔ/ は CVʔ の直後にあらわれ、その他の場合には /mai/ があらわれる。/mai/ は音声的には [meɪ] と聞こえる。

<sup>注47</sup> Caiʔ の環境では [ɛiʔ] よりも [ɛʔ] と発音されることのほうがおおい。

<sup>注48</sup> [oi] は一例をのぞき、CVʔ でしか確認されない。その一例は「はい」を意味する /oi/ である。これはチャクマ語からの借用語かもしれない。

<sup>注49</sup> [ɔi] は一例をのぞき、閉音節でしかあらわれない。その一例はバングラ語からの借用語であることがあきらかな /mɔi\_da/ 「粉」 (Bangla mɔɪda) である。



(53) a. Ciʔ: /riʔ\_ʔa/ [riʔ ʔe] 「リキシヤ」<sup>注50</sup> < Bangla rikʃa

b. Caiʔ: /naiʔ/ [nɐiʔ] ~ [neʔ] 「精霊」

c. Caʔ: /naʔ/ [neʔ] 「深い」

d. Coʔ: /noʔ/ [noʔ] 「うしろ」

e. Coiʔ: /loiʔ/ [loiʔ] 「亀」

f. Coiʔ: /loiʔ/ [lorʔ] 「追う」

g. Couʔ: /louʔ/ [louʔ] 「する」

(54) a. Ciŋ: /niŋ/ [nīŋ] 「太陽」

b. Caiŋ: /maiŋ/ [mēiŋ] 「怒り」

c. Caŋ: /máŋ/ [mēŋ] 「王」

d. Cuŋ: /múŋ/ [mūŋ] 「嫌う」

e. Coŋ: /moŋ/ [mōŋ] 「女性の兄弟」

f. Coiŋ: /noiŋ/ [nōiŋ] 「～できる」

## 2.5 声調

### 2.5.1 先行研究

マルマ語の声調については D. BERNOT(1958: 275) と L. BERNOT(1967b: 227) に記述がみられる。両者の記述には若干のちがいがあがあるが、ここでは D. BERNOT(1958: 275) の記述を (55) にまとめておく。

(55) a. 第一声調<sup>注51</sup> (CV): 音節中を通じて中程度のつよさがつづく。無標の声調。

b. 第二声調<sup>注52</sup> (CV): 音節初頭につよい強勢がある。初頭子音を強調しているような印象がある。

c. 第三声調<sup>注53</sup> (CV): 母音はみじかく、突然おわる。語末にかかるい声門閉鎖をともなう<sup>注54</sup>。

<sup>注50</sup> Ciʔ はこの一例しか確認されていない。なおこの語については /ri\_ʔa/ や /ri\_ʔaʔ/ という語形もある。

<sup>注51</sup> ビルマ語の低平調に対応する。

<sup>注52</sup> ビルマ語の高平調に対応する。

<sup>注53</sup> ビルマ語の下降調に対応する。

<sup>注54</sup> 藤原 (2002: 221 注 21) ではこれに相当する声調を CV̇ と表記し「下降調」とかいた。たしかにバンドルバン地方のマルマ語では、下降調のことがおおいようである。しかし本稿であつかうラージョストリ地方のマルマ語では、(56c) に後述するように「上昇調」である。

- d. 第四声調<sup>注55</sup> (CV?): 声門閉鎖音でおわる音節にあたえられる声調。

## 2.5.2 筆者の観察

筆者の観察によると、マルマ語には弁別的声調として低調、高調、上昇調、高抑調の四種の声調がある。これは D. BERNOT(1958)、L. BERNOT(1967b) とほぼおなじとってよい。

弁別的とはいえないが、音声的に [ə] があらわれる環境では軽声<sup>55</sup>があらわれる。軽声は D. BERNOT(1958)、L. BERNOT(1967b) では記述されていない。

- (56) a. 低調: (CV): ピッチは相対的にひくい。ビルマ語の低平調にほぼ対応する。母音はややながく発音される。  
b. 高調: (CV?): ピッチは相対的にたかい。語末でやや下降することもある。ビルマ語の高平調にほぼ対応する。母音はみじかく発音され、やや息がかってきこえることもある。  
c. 上昇調: (CŨ): ピッチはひくいところからはじまり、たかくおわる。ビルマ語の下降調に対応するが、ピッチのあらわれは逆であるところに特徴がある。母音はみじかく発音され、緊喉性がつよい。高抑調との区別がむずかしい。  
d. 高抑調: (CV?): ピッチはたかく、語末は声門閉鎖音でおわる。声門閉鎖音におわる環境であらわれることが予測可能なので、音韻論的には弁別的なものであるとはかんがえない。  
e. 軽声: (Ca\_CV): 音声的に [ə] があらわれる音節に付与される音調。低調が後続する場合 (Ca\_CV) は、高調ほどではないにしても、ピッチは相対的にややたかくきこえる。高調、上昇調、高抑調が後続する場合 (Ca\_CŨ/Ca\_CŨ/Ca\_CV?) は、ピッチは相対的にひくくきこえる。ただし本稿では音素として /ə/ をみとめるため、軽声を音韻論的に弁別的なものであるとはかんがえない。

(57)~(62) に最小対語の例をあげる。ここからは音素表記のみをあげることにする。

- (57) a. /ca/ 「書かれたもの」  
b. /cá/ 「食べる」  
c. /cǎ/ 「はじまる」

---

<sup>注55</sup> ビルマ語の高抑調に対応する。

- d. /caʔ/ 「機械」
- (58) a. /na/ 「痛い」  
 b. /ná/ 「耳」  
 c. /nǎ/ 「具格標識」  
 d. /naʔ/ 「深い」
- (59) a. /θaŋ/ 「教える」  
 b. /θáŋ/ 「交尾する」  
 c. /θǎŋ/ 「くつつく」
- (60) a. /ə-θa/ 「安全」  
 b. /ə-θá/ 「肉」  
 c. /ə-θaʔ/ 「命」
- (61) a. /ə-θi/ 「死」  
 b. /ə-θí/ 「実」  
 c. /ə-θĩ/ 「しりあうこと」
- (62) a. /ə-niŋ/ 「赤さ」  
 b. /ə-níŋ/ 「あたたかさ」  
 c. /ə-nĩŋ/ 「低さ」

## 2.6 連声

この節ではマルマ語にみられる主要な連声について記述する。

### 2.6.1 有声音と無声音

D. BERNOT(1958: 276) でのべられているように、マルマ語において有声音と無声音の対立は絶対語頭にのみかざられる<sup>注56</sup>。語中では、閉鎖音と破擦音において、有声音と無声音の対立がなくなる傾向にある。すなわち CV および CVŋ に後続する場合は有声音が、CVʔ に後続する場合は無声音があらわれる傾向にある。

<sup>注56</sup> «Avant de dresser le tableau des consonnes marma, précisons, d'abord, qu'en marma comme en birman, l'opposition des sourdes et des sonores n'est pertinente qu'à l'initiale absolue; dans le corps d'un mot composé, le caractère sourd ou sonore de l'initiale du deuxième terme est rigoureusement déterminé par la finale du premier terme: lorsque cette finale est une voyelle ou la consonne nasale, la consonne suivante reste sonore ou le devient; lorsque cette finale est l'occlusive laryngale, la consonne suivante reste sourde ou le devient;» (D. BERNOT 1958: 276; 強調は筆者による)

- (63) a. C[+voiced] / (C)V(ŋ) \_\_  
 b. C[-voiced] / (C)V? \_\_

(64)~(66) に語例をあげる。

- (64) a. /khwí tə-goŋ/ 「犬一匹」 < /khwí/ 「犬」、/təi?/<sup>注57</sup> 「一」、/goŋ/ 「匹 (動物をかぞえる助数詞)」  
 b. /khwí θúŋ-goŋ/ 「犬三匹」 < /khwí/ 「犬」、/θúŋ/ 「三」、/goŋ/ 「匹 (動物をかぞえる助数詞)」  
 c. /khwí hnoi?-koŋ/ 「犬二匹」 < /khwí/ 「犬」、/hnoi?/ 「二」、/koŋ/ 「匹 (動物をかぞえる助数詞)」
- (65) a. /θi=ji/ 「知らせる」 < /θi/ 「知る」、/i=ji/ 「使役接辞」  
 b. /lou?=ci/ 「仕事をさせる」 < /lou?/ 「仕事をする」、/i=ci/ 「使役接辞」
- (66) a. /hwá.la ba/ 「はい」 < /hwá.la/ 「はい」、/ba/ 「丁寧さをあらわす助詞」  
 b. /mə-hou? pa/ 「いいえ」 < /mə/ 「否定辞」、/hou?/ 「正しい」、/pa/ 「丁寧さをあらわす助詞」

(67) にしめすように、動詞の派生形<sup>注58 注59</sup>からも、同様の傾向がうかがわれる。

- (67) a. /kóŋ/ 「よい」

<sup>注57</sup> 2.6.2 で後述する弱化をおこして /tə/ になっていると推定される。

<sup>注58</sup> 以下にしめす語例には、意味的には形容詞といえるものがおおい。しかし基本形である CV の形式は統語的には動詞としてふるまっているので動詞としている。

<sup>注59</sup> マルマ語の動詞は形態的にみて CV を基本形とする。そこから a-CV, Cə-CV, CV=rə の派生形がうまれる。それぞれの用例をつぎにしめす。

- (i) a. CV: de-θu fe re. 「これはちいさいです」: de 「これ」、θu 「モノ」、fe 「ちいさい」、re 「述語標識」  
 b. a-CV: de-θu ə-fe. 「これはちいさい」  
 c. Cə-CV: de-θu fə-fe mraŋ re. 「これはちいさくみえる」: mraŋ 「みえる」  
 d. CV=rə: de-θu fe=rə lə khă re. 「これはちいさくなってしまった」: lə 「過去標識」、khă 「完了標識」

この四つの語形の機能的差異はまだよくわかっていないが、現在のところつぎのようながいがあるのではないかとかんがえている。

- (ii) a. CV: 基本形。動詞としてはたらき、述語標識をとる。  
 b. a-CV: 名詞化。述語標識をとらない。  
 c. Cə-CV: 副詞的にはたらき動詞句を修飾する。述語標識をとらない。  
 d. CV=rə: 分詞として動詞句をつくる。述語標識をとらない。

- b. /ə-kóŋ/ 「よい」
- c. /kə\_góŋ/ 「よい・よく」
- d. /kóŋ=rǝ/ 「よい・よく」

(67a) の基本形から (67c) のような重複形が派生する。ここで後部要素の初頭子音が有声音となっていることに注意したい<sup>注60</sup>。

接頭辞/ə-/に後続する場合は (67b) にしめたように有聲化しないのが普通である。しかし、かずはすくないが (68b) にしめすように有声音であられるものもある。

- (68) a. /krí/ 「大きい」
- b. /ə-grí/ 「大きい」
- c. /kə\_grí/ 「大きい・大きく」
- d. /krí=rǝ/ 「大きい・大きく」

無声有気音には対応する有声音がないので、CV や CVŋ に後続しても有聲有気音にはならない。(69) に例をあげる。

- (69) a. /khyo/ 「甘い」
- b. /ə-khyo/ 「甘い」
- c. /khə\_khyo/ 「甘い・甘く」
- d. /khyo=rǝ/ 「甘い・甘く」

有声音であるか無声音であるかは、語と語のむすびつきのつよさをはかる基準となる。(70) に例をしめす。

- (70) a. ri-grí phǝ
- 水-大 FUT
- 「大水 (洪水) になるだろう」

<sup>注60</sup> ただし (i)、(ii) にしめすように基本形が Cɔi? または Cɔi? であるものは、重複形でも有聲化しないようである。

- (i) a. /cɔi?/ 「正直な」
- b. /cə\_cɔi?/ 「正直な・正直に」
- (ii) a. /toi?/ 「暗い」
- b. /tə\_toi?/ 「暗い・暗く」

b. ri krí phǒ

水 大 FUT

「水が大きくなるだろう (洪水になるだろう)」

(70a) も (70b) も「洪水になるだろう」ということを意味しているという点ではおなじである。しかし、(70a) では「大きい」をあらわす /krí/ が名詞をうしろから修飾する形容詞としてはたらいっており、直前の名詞とのむすびつきがつよいために有声音の /grí/ ででている。そして /ri/ と /grí/ は連続して発音され、全体で「洪水になる」という動詞としてはたらいしている。これに対して (70b) では「大きい」をあらわす /krí/ はそれだけで動詞としてはたらいしており、直前の名詞とのむすびつきはよい。この場合、音声的には /ri/ と /krí/ のあいだにわずかな休止がはいる。

## 2.6.2 母音の弱化

CVCV(ŋ/? ) 型の複合語においては、前部要素が Cə で実現することがおおい。(71)、(72) に語例をしめす<sup>注61</sup>。

(71) a. /tə-che/ 「十」 < /toi/? 「一」 + /che/ 「十」

b. /chə-loi/? 「タバコ」 < /chí/ 「葉」 + /loi/? 「巻く」

c. /rə-dwǒŋ/ 「井戸」 < /ri/ 「水」 + /twǒŋ/ 「深い」

(72) a. /də=ma/ 「ここ」 < /de/ 「これ」 + /ma/ 「場所格」

b. /yə=poŋ/ 「そのように」 < /ye/ 「それ」 + /poŋ/ 「～のように」

(71) や (72) のように分析はできないものの、CəCVCV(ŋ/? ) という語形自体はおおくみられる。マルマ語では CVCV(ŋ/? ) よりも CəCVCV(ŋ/? ) のほうが安定した語形であるとおもわれる。(73)、(74) に語例をあげておく<sup>注62</sup>。

(73) a. /kə\_ma/ 「幸運」

b. /kə\_já/ 「あそぶ」

<sup>注61</sup> 以下にしめす語例は、意味と形式から判断してそのように分析している。実際に \*/toi?-che/、\*/chí-loi/?、\*/ri-dwǒŋ/、\*/de=ma/、\*/ye=poŋ/ といった語形がみられるわけではない。

<sup>注62</sup> 現代ビルマ語の代表的な方言であるヤンゴン方言にも同様の傾向はみられる。しかしヤンゴン方言では CəCVCV(ŋ/? ) となった語形においては Cə の部分の初頭子音が有声音となる傾向があるのに対し、マルマ語ではそうはならない。

(i) a. SpB: [zəga<sup>2</sup>] 「ことば」 < WrB: (ca-ga<sup>2</sup>)

b. Marma: /ca\_gá/ [təgá] 「ことば」

c. /kə\_lǎ/ 「水タバコ」

(74) a. /pə\_khaʔ/ 「ゆりかご」

b. /pə\_láŋ/ 「ピン」

### 2.6.3 変調

ビルマ語とおなじく、マルマ語においても単音節の代名詞類<sup>注63</sup>を斜格にすると声調が変化する。マルマ語では低声調のものが上昇調に変化する。(75) に例をあげる。

(75) a. /ŋa/ 「わたし」

b. /ŋǎ naŋ\_me/ 「わたしの名前」 < /ŋǎ/ 「わたし (斜格)」, /naŋ\_me/ 「名前」

c. /ŋǎ=ma/ 「わたしのところに」 < /ŋǎ/ 「わたし (斜格)」, /=ma/ 「場所をあらわす接辞」

類例に数詞の「十」、「百」や「千」がある<sup>注64</sup>。

(76) a. /tə-che/ 「十」

b. /tə-chě-toiʔ/ 「十一」 < /tə/ 「一」、/chě/ 「十 (斜格)」, /toiʔ/ 「一」

(77) a. /tə-ra/ 「百」

b. /tə-rǎ-toiʔ/ 「百一」 < /tə/ 「一」、/rǎ/ 「百 (斜格)」, /toiʔ/ 「一」

(78) a. /tə-thoŋ/ 「千」

b. /tə-thōŋ-toiʔ/ 「千一」 < /tə/ 「一」、/thōŋ/ 「千 (斜格)」, /toiʔ/ 「一」

しかし/nǎ/をはさむと変調しない。

(79) a. /tə-che nǎ toiʔ/ 「十一」 < /tə/ 「一」、/che/ 「十」、/nǎ/ 「と」、/toiʔ/ 「一」

b. /tə-ra nǎ toiʔ/ 「百一」 < /tə/ 「一」、/ra/ 「百」、/nǎ/ 「と」、/toiʔ/ 「一」

c. /tə-thoŋ nǎ toiʔ/ 「千一」 < /tə/ 「一」、/thoŋ/ 「千」、/nǎ/ 「と」、/toiʔ/ 「一」

/tə-/以外に後続する場合にも変調しない。

<sup>注63</sup> いまのところは/ŋa/ 「わたし」 /ko/ 「自分」、/θu/ 「人」、/lu/ 「人間」 くらいしか実例がみつからない。なお/naŋ/ 「あなた (女)」 は斜格では/naʔ/ となる。

<sup>注64</sup> ただしビルマ語とちがい、変調をおこすのは/tə/ に後続し、かつそのあとにさらに数詞が直接つづく場合だけである。

- (80) a. /kú-che-tsi?/ 「九十一」 < /kú/ 「九」、/che/ 「十」、/tsi?/ 「一」  
 b. /kú-ra-tsi?/ 「九百一」 < /kú/ 「九」、/ra/ 「百」、/tsi?/ 「一」  
 c. /kú-thoŋ-tsi?/ 「九千一」 < /kú/ 「九」、/thoŋ/ 「千」、/tsi?/ 「一」

### 3 ビルマ文語との対応

D. BERNOT(1958) ではマルマ語とビルマ文語、ビルマ口語<sup>注65</sup>との関係が主要な語例についてのべられている。しかし網羅的なものとはいえない。また、細部においては筆者の観察とことなる点もある。

以下、筆者によるマルマ語音素表記とビルマ文語との対応関係を子音と母音にわけてみていく。そしてマルマ語に特徴的な点を指摘する。

#### 3.1 子音

子音については、ビルマ文語にみられる形式とマルマ語の形式がかなりきれいに対応している。

##### 3.1.1 単子音 (初頭子音)

ビルマ文語 (WrB) の単子音についてビルマ口語 (SpB)、筆者によるマルマ語音韻表記 (M) との対応をしめせば (81)~(83) のようになる。ただしつづり字上の有声有気音、反舌音の例はすくないのであげていない。

	WrB	p	ph	b	t	th	d	c	ch	j	k	kh	g	s	h
(81)	SpB	p	p <sup>h</sup>	b	t	t <sup>h</sup>	d	s	s <sup>h</sup>	z	k	k <sup>h</sup>	g	t̪	h
	M	p	ph	b	t	th	d	c	ch	—	k	kh	g	θ	h

	WrB	m	hm	n	hn	ñ	hñ	ng	hng
(82)	SpB	m	m̥m	n	n̥n	ɲ	ɲ̥ɲ	ŋ	ŋ̊ŋ
	M	m	hm	n	hn	ɲy	hɲy	ŋ	hɲ

	WrB	y	hy	r	hr	l	hl	w
(83)	SpB	j	ɕ	j	ɕ	l	l̥	w
	M	y	—	r	hr/f	l	hl	w

<sup>注65</sup> 本稿でのビルマ口語とは、現代ビルマ語の標準語であるヤンゴン方言をさすものとする。



代表例を (84)~(96) にあげる。以下ビルマ文語形式は 〈...〉、筆者による音韻表記は /.../ でしめた。ビルマ文語の転写方式は附録 1 を参照。ビルマ文語の右肩の数字は声調をあらわす。ただし第一声調 (低平調) については特に表記していない。

- (84) a. 〈p〉: /p/<sup>注66</sup> || 〈paa<sup>2</sup>〉: /pá/ 「頬」  
 b. 〈ph〉: /ph/ || 〈phat〉: /phai?/ 「読む」  
 c. 〈b〉: /b/ || 〈ba-maa〉: /bə\_maa/ 「ビルマ」
- (85) a. 〈t〉: /t/<sup>注67</sup> || 〈tong〉: /toŋ/ 「山」  
 b. 〈th〉: /th/<sup>注68</sup> || 〈thaa<sup>2</sup>〉: /thá/ 「置く」  
 c. 〈d〉: /d/ || 〈daŋ〉: /daŋ/ 「罰」
- (86) a. 〈c〉: /c/ || 〈caa<sup>2</sup>〉: /cá/ 「食べる」  
 b. 〈ch〉: /ch/ || 〈chei<sup>2</sup>〉: /chí/ 「葉」  
 c. 〈j〉: — || 適当な対応例未確認
- (87) a. 〈k〉: /k/<sup>注69</sup> || 〈ka<sup>3</sup>〉: /kǎ/ 「踊る」  
 b. 〈kh〉: /kh/<sup>注70</sup> || 〈khaa<sup>2</sup>〉: /khá/ 「腰」  
 c. 〈g〉: /g/ || 〈ga-ŋan<sup>2</sup>〉: /gə\_náŋ/ 「数字」<sup>注71</sup>

<sup>注66</sup> ビルマ文語の 〈p〉 がマルマ語では /ph/ で対応しているものが一例だけ確認されている。

(i) 〈p〉: /ph/ || 〈rang-pat〉: /raŋ\_phai?/ 「胸」 cf. Cak raŋ-phái? (本稿におけるチャック語の形式は、筆者が収集した一次資料による。チャック語の表記法については藤原 (2002) を参照)  
 (i) で現代ビルマ語での一般的なつづりは 〈p〉 で、実際には [b] で発音される。しかし原田・大野 (1979) や大野 (2000) には 〈ph〉 のつづりもみられる。マルマ語の形式はそちらとよく一致する。

<sup>注67</sup> ビルマ文語の 〈t〉 がマルマ語では /c/ で対応しているものが一例だけ確認されている。

(i) 〈t〉: /c/ || 〈ta〉: /ca/ 「～なもの、～なこと (名詞節標識)」

<sup>注68</sup> ビルマ文語の 〈th〉 がマルマ語では /ch/ で対応しているものが一例だけ確認されている。

(i) 〈th〉: /ch/ || 〈a-thi〉: /a-chi/ 「～まで」

<sup>注69</sup> ビルマ文語の 〈k〉 がマルマ語では /g/ で対応しているものが一例だけ確認されている。

(i) 〈k〉: /g/ || 〈kong<sup>2</sup>-kang〉: /gón\_khaŋ/ 「空」

この例は後部要素が 〈k〉 に対して /kh/ で対応していることも例外的である。

<sup>注70</sup> ビルマ文語の 〈kh〉 がマルマ語では /g/ で対応しているものが二例だけ確認されている。

(i) 〈kh〉: /g/ || 〈khong<sup>2</sup>〉: /ə-gón/ 「頭」  
 〈a-khu<sup>3</sup>〉: /ə-gǔ/ 「今」

<sup>注71</sup> 対応例はこの一例しか確認されていない。

- (88) a. ⟨s⟩ : /θ/ || ⟨saa<sup>2</sup>⟩ : /θá/ 「息子」  
 b. ⟨h⟩ : /h/ || ⟨hɔŋg<sup>2</sup>⟩ : /hɔ́ŋ/ 「古い」
- (89) a. ⟨m⟩ : /m/ || ⟨mo<sup>2</sup>⟩ : /mú/ 「雨」  
 b. ⟨hm⟩ : /hm/ <sup>注72</sup> || ⟨hman⟩ : /hmaiŋ/ 「ガラス」
- (90) a. ⟨n⟩ : /n/ || ⟨naa<sup>2</sup>⟩ : /ná/ 「耳」  
 b. ⟨hn⟩ : /hn/ || ⟨hnac⟩ : /hnoiʔ/ 「年」
- (91) a. ⟨ñ⟩ : /ŋy/ || ⟨ñaa⟩ : /ŋya/ 「右」  
 b. ⟨hñ⟩ : /hŋy/ || ⟨hñoo<sup>2</sup>⟩ : /hŋyú/ 「しおれる」
- (92) a. ⟨ng⟩ : /ŋ/ || ⟨ngaa⟩ : /ŋa/ 「わたし」  
 b. ⟨hng⟩ : /hŋ/ || ⟨hngak⟩ : /hŋaʔ/ 「鳥」
- (93) a. ⟨y⟩ : /y/ || ⟨yang⟩ : /yaŋ/ 「蠅」  
 b. ⟨hy⟩ : — || 適当な対応例未確認
- (94) ⟨r⟩ : /r/ || ⟨rei⟩ : /ri/ 「水」
- (95) a. ⟨l⟩ : /l/ <sup>注73</sup> || ⟨la<sup>3</sup>⟩ : /lá/ 「月」  
 b. ⟨hl⟩ : /hl/ || ⟨hlan⟩ : /hlaŋ/ 「槍」
- (96) ⟨w⟩ : /w/ || ⟨wei<sup>2</sup>⟩ : /wí/ 「遠い」

⟨hr⟩ については対応が特殊である。開音節では/hr/、閉音節では/f/で対応するものが、かすからいうとおおい。代表例を(97)にあげる<sup>注74</sup>。

<sup>注72</sup> ビルマ文語の ⟨hm⟩ がマルマ語では/m/で対応しているものが一例だけ確認されている。

(i) ⟨hm⟩ : /m/ || ⟨hmaa⟩ : /ma/ 「で(場所格)」

<sup>注73</sup> ビルマ文語の ⟨l⟩ がマルマ語では/hl/で対応しているものが一例だけ確認されている。

(i) ⟨l⟩ : /hl/ || ⟨lei<sup>2</sup>⟩ : /hlé/ 「弓」

この対応は不規則ではあるが、ビルマ語タウンヨウ方言を記述した藪(1981: 166)の資料のなかには/hlé/という語形もあがっている。

<sup>注74</sup> 代表例以外にもつぎのような例が確認されている。

(i) a. ⟨hrwei<sup>3</sup>⟩ : /hrwí/ 「うごかす」  
 b. ⟨hrei<sup>3</sup>⟩ : /hrí/ 「前」  
 (ii) a. ⟨a-hrap⟩ : /a-fouʔ/ 「いそがしい」  
 b. ⟨a-hrang⟩ : /a-faŋ/ 「主人」

- (97) a. CV: ⟨hr⟩ : /hr/ || ⟨hraa⟩ : /hra/ 「探す」  
 b. CVC: ⟨hr⟩ : /ʃ/ || ⟨hrac⟩ : /ʃaiʔ/ 「八」  
 c. CVN: ⟨hr⟩ : /ʃ/ || ⟨hrɔŋ⟩ : /ʃɔŋ/ 「避ける」

しかし例外的な対応をするものも、かずはすくないが確認されている。

- (98) a. CV: ⟨hr⟩ : /ʃ/ || ⟨hrwe⟩ : /ʃwe/ 「金」  
 b. CVC: ⟨hr⟩ : /hr/ || ⟨hrak⟩ : /hraʔ/ 「はずかしい」<sup>注75</sup>  
 c. CVN: ⟨hr⟩ : /hr/ || ⟨hrañ⟩ : /hre/ 「長い」<sup>注76</sup>

### 3.1.2 複子音

#### 3.1.2.1 Cr

ビルマ文語の Cr についても同様にビルマ口語、筆者によるマルマ語音韻表記との対応をしめせば (99) のようになる。

	WrB	pr	phr	br	mr	hmr	kr	KHR	gr	ngr
(99)	SpB	pʲ	pʰj	bʲ	mʲ	mmʲ	t̚	t̚ʰ	ɕ	ɲ
	M	pr	phr	—	mr	hmr	kr	KHR	—	ŋr

(99) にしめたように、ビルマ口語と比較すると、マルマ語はビルマ文語の形式をよくのこしているといえる。代表例を (100)、(101) にあげる。

- (100) a. ⟨pr⟩ : /pr/ || ⟨pra³⟩ : /prá/ 「見せる」  
 b. ⟨phr⟩ : /phr/ || ⟨phruu⟩ : /phru/ 「白い」  
 c. ⟨br⟩ : — || 適当な対応例未確認  
 d. ⟨mr⟩ : /mr/ || ⟨mrang²⟩ : /mrán/ 「馬」  
 e. ⟨hmr⟩ : /hmr/ || ⟨a-hmrup⟩ : /ə-hmrɔʔ/ 「泡」
- (101) a. ⟨kr⟩ : /kr/ || ⟨kro²⟩ : /krú/ 「綱」  
 b. ⟨KHR⟩ : /KHR/ || ⟨KHrei⟩ : /ə-khri/ 「足」  
 c. ⟨gr⟩ : — || 適当な対応例未確認  
 d. ⟨ngr⟩ : /ŋr/ || ⟨ngrang²⟩ : /ŋráŋ/ 「断る」

- c. ⟨hruṁ²⟩ : /ʃúŋ/ 「負ける」  
 d. ⟨dhaa²-hrañ⟩ : /dáʃe/ 「ナイフ」

<sup>注75</sup> 対応例はこの一例しか確認されていない。

<sup>注76</sup> 対応例はこの一例しか確認されていない。

しかし、(102) にしめすように、⟨r⟩ が /y/ で対応する例がまれにみられる。語例の分布は散発的であり、合理的説明をあたえるのはむずかしい<sup>注77</sup>。

- (102) a. /pyaŋ/ 「直す」 : WrB ⟨prang⟩ cf. Cak pyáj  
 b. /ə-yaŋ/ 「以前」 : WrB ⟨a-rang⟩ cf. Cak á-yaŋ

### 3.1.2.2 Cy

ビルマ文語の Cy についても同様にビルマ口語、筆者によるマルマ語音韻表記との対応をしめせば (103)、(104) のようになる。

	WrB	py	phy	by	my	hmy	ky	khy	gy
(103)	SpB	p <sup>j</sup>	p <sup>h</sup> j	b <sup>j</sup>	m <sup>j</sup>	ɲm <sup>j</sup>	t̪	t̪ <sup>h</sup>	ɕ
	M	py	phy	by	my	hmy	ky	khy	gy

	WrB	ly	hly	hsy
(104)	SpB	y	ɕ	ɕ
	M	y	ɕ	—

代表例を (105)~(107) にあげる。

- (105) a. ⟨py⟩ : /py/ || ⟨pyɔ⟩ : /pyɔ/ 「喜ぶ」  
 b. ⟨phy⟩ : /phy/ || ⟨phyak⟩ : /phyaʔ/ 「壊す」  
 c. ⟨by⟩ : /by/ || ⟨byong<sup>2</sup>⟩ : /byóŋ/ 「アオサギ」<sup>注78</sup>  
 d. ⟨my⟩ : /my/ || ⟨myok⟩ : /myɔʔ/ 「猿」  
 e. ⟨hmy⟩ : /hmy/ || ⟨hmya<sup>2</sup>⟩ : /hmyá/ 「釣る」

- (106) a. ⟨ky⟩ : /ky/ || ⟨kya<sup>3</sup>⟩ : /kyǎ/ 「落ちる」

<sup>注77</sup> なぜ ⟨r⟩ が [j] で発音されているのかについて、BUCHANAN(1799) はつぎのようにいう。

“It is to be observed, that the pronunciation ... appears exceedingly inarticulate. In particular they hardly even pronounce the letter R; ... This indistinct pronunciation probably arises from the excessive quantity of betel, which they chew. No man of rank ever speaks without his mouth being as full as possible, of a mixture of betel and nut, tobacco, quick lime and spices. In this state he is nearly deprived of the use of his tongue in articulation, ... Hence it is that an undistinct articulation has become fashionable, even when the tongue is at liberty.” (BUCHANAN 1799: 222-223)

<sup>注78</sup> 対応例はこの一例しか確認されていない。

- b. <khy> : /khy/ || <khyo> : /khyo/ 「甘い」  
 c. <gy> : /gy/ || <gyang> : /gyaŋ/ 「独楽」<sup>注79</sup>
- (107) a. <ly> : /y/ || <lyak> : /yaʔ/ 「舐める」  
 b. <hly> : /ʃ/ || <hlyaa> : /ʃa/ 「舌」  
 c. <hsy> : — || 適当な対応例未確認

少数ではあるが、(108) にしめすように、この対応からは逸脱するものがある。いずれもビルマ文語での <y> がマルマ語では /r/ で対応している。しかし、なぜそうになっているのかは不明である<sup>注80</sup>。

- (108) a. /ə-gro/ 「角」 : WrB <khyo><sup>注81</sup>  
 b. /khre/ 「糸」 : WrB <ap-khyañ>  
 c. /khrouʔ/ 「縫う」 : WrB <khyup>  
 d. /loin-khrón/ 「喉」 : WrB <lañ-khyong<sup>2</sup>> cf. Cak á.kru

### 3.1.2.3 Cw

ビルマ文語の Cw についても同様にビルマ口語、筆者によるマルマ語音韻表記との対応をしめせば (109)~(111) のようになる。

	WrB	pw	phw	bw	cw	chw	jw	tw	thw	dw
(109)	SpB	p <sup>w</sup>	p <sup>hw</sup>	b <sup>w</sup>	sw	s <sup>hw</sup>	z <sup>w</sup>	t <sup>w</sup>	t <sup>hw</sup>	d <sup>w</sup>
	M	pw	phw	—	cw	chw	jw	tw	thw	—

<sup>注79</sup> 対応例はこの一例しか確認されていない。

<sup>注80</sup> (108) にあげる例からは <khy> が /khr/ で対応しているようにみえるかもしれない。しかしそれはあくまでも例外的なものであり、<khy> は /khy/ で対応するのが普通である。語例をさらにあげておく。

- (i) a. <khya<sup>3</sup>> : /khyǎ/ 「おとす」  
 b. <khyak> : /khyʔ/ 「臍」  
 c. <khyac> : /khyoiʔ/ 「愛する」  
 d. <khyit> : /khyaiʔ/ 「ひっかける」  
 e. <khyong<sup>2</sup>> : /khyón/ 「川」

<sup>注81</sup> 原田・大野 (1979) にはこの語に対してビルマ文語で <khro> というつづりもあがっている。マルマ語の形式はそちらと対応している。

	WrB	kw	khw	gw	mw	hmw	nw	hnw	ɲw
(110)	SpB	k <sup>w</sup>	k <sup>hw</sup>	g <sup>w</sup>	m <sup>w</sup>	ɲm <sup>w</sup>	n <sup>w</sup>	ɲn <sup>w</sup>	ɲ <sup>w</sup>
	M	kw	khw	—	mw	hmw	nw	hnw	ɲw

	WrB	rw	hrw	lw	hlw
(111)	SpB	j <sup>w</sup>	ɕ <sup>w</sup>	l <sup>w</sup>	ll <sup>w</sup>
	M	rw	hrw	rw	hrw

代表例を (112)~(119) にあげる。

- (112) a. ⟨pw⟩ : /pw/ || ⟨pwai<sup>2</sup>⟩ : /pwé/ 「祭」  
b. ⟨phw⟩ : /phw/ || ⟨phwang<sup>3</sup>⟩ : /phwǝŋ/ 「開ける」  
c. ⟨bw⟩ : — || 適当な対応例未確認
- (113) a. ⟨cw⟩ : /cw/ || ⟨cwan<sup>3</sup>⟩ : /cwǎiŋ/ 「放棄する」  
b. ⟨chw⟩ : /chw/ || ⟨chwai<sup>2</sup>⟩ : /chwé/ 「吊るす」  
c. ⟨jw⟩ : /jw/ || ⟨jwan<sup>2</sup>⟩ : /jwǎiŋ/ 「匙」<sup>注82</sup>
- (114) a. ⟨tw⟩ : /tw/ || ⟨twaa<sup>2</sup>⟩ : /twá/ 「這う」  
b. ⟨thw⟩ : /thw/ || ⟨thwan⟩ : /thwaiŋ/ 「耕す」  
c. ⟨dw⟩ : — || 適当な対応例未確認
- (115) a. ⟨kw⟩ : /kw/ || ⟨kwai⟩ : /kwé/ 「割れる」  
b. ⟨khw⟩ : /khw/ || ⟨khwei<sup>2</sup>⟩ : /khwí/ 「犬」  
c. ⟨gw⟩ : /gw/ || ⟨gwam<sup>2</sup>⟩ : /gwǎiŋ/ 「綿」<sup>注83</sup>
- (116) a. ⟨mw⟩ : /mw/ || ⟨mwat-sip⟩ : /mwai?/ 「飢える」  
b. ⟨hmw⟩ : /hmw/ || ⟨hmwei⟩ : /hmwiŋ/ 「かきまぜる」
- (117) a. ⟨nw⟩ : /nw/ || ⟨nwaa<sup>2</sup>⟩ : /nwá/ 「牛」  
b. ⟨hnw⟩ : /hnw/ || ⟨hnwei<sup>2</sup>⟩ : /hnwíŋ/ 「剥ぐ」
- (118) ⟨ɲw⟩ : /ɲw/ || ⟨ngwei⟩ : /ɲwe/ 「銀」<sup>注84</sup>
- (119) a. ⟨rw⟩ : /rw/ || ⟨rwaa⟩ : /rwa/ 「村」

<sup>注82</sup> 対応例はこの一例しか確認されていない。

<sup>注83</sup> 対応例はこの一例しか確認されていない。

<sup>注84</sup> 対応例はこの一例しか確認されていない。

b. ⟨hrw⟩ : /hrw/ || ⟨hrwei<sup>3</sup>⟩ : /hrwĩ/ 「動かす」<sup>注85</sup>

⟨l⟩ が /l/ で対応するのと比較すると ⟨lw⟩、⟨hlw⟩ の対応は特殊で、それぞれ /rw/、/hrw/ で対応する。

(120) a. ⟨lw⟩ : /rw/ || ⟨lway⟩ : /rwe/ 「容易な」

b. ⟨hlw⟩ : /hrw/ || ⟨hlwa<sup>3</sup>⟩ : /hrwǎ/ 「のこぎり」

### 3.1.2.4 Crw

ビルマ文語の Crw についても同様にビルマ口語、筆者によるマルマ語音韻表記との対応をしめせば (121) のようになる。

	WrB	prw	mrw	krw	khwr
(121)	SpB	py	mw	t <sup>w</sup>	t <sup>hw</sup>
	M	—	mrw	krw	—

代表例を (122)、(123) にあげる。

(122) a. ⟨prw⟩ : — || 適当な対応例未確認

b. ⟨mrw⟩ : /mrw/ || ⟨mrwe⟩ : /mrwin/ <sup>注86</sup> 「蛇」 <sup>注87</sup>

(123) a. ⟨krw⟩ : /krw/ || ⟨krwak⟩ : /krwɔʔ/ 「鼠」

b. ⟨khwr⟩ : — || 適当な対応例未確認

### 3.1.2.5 Cyw

ビルマ文語の Cyw についても同様にビルマ口語、筆者によるマルマ語音韻表記との対応をしめせば (124) のようになる。

	WrB	kyw	khyw	gyw
(124)	SpB	t <sup>(w)</sup>	t <sup>h(w)</sup>	ɕ <sup>(w)</sup>
	M	kyw	khyw	—

<sup>注85</sup> 対応例はこの一例しか確認されていない。ビルマ文語で ⟨hrw⟩ をもつ「金」はビルマ口語とおなじく /j/ で対応している。

(i) ⟨hrwei⟩ : /jwe/ 「金」

この例については母音の対応もふくめて例外的なものであるとおもわれる。

<sup>注86</sup> ただしこの語形は方言によっては /mrwin/、/mrɪŋ/ という語形にもなるようである。

<sup>注87</sup> 対応例はこの一例しか確認されていない。

代表例を (125) にあげる。

- (125) a. ⟨kyw⟩ : /kyw/ || ⟨kywan⟩ : /kywaiŋ/ 「奴隸」  
 b. ⟨khyw⟩ : /khyw/ || ⟨khywei<sup>2</sup>⟩ : /khywé/ 「汗」  
 c. ⟨gyw⟩ : — || 適当な対応例未確認

### 3.1.3 末子音

ビルマ文語の閉鎖音末子音についてビルマ口語、D. BERNOT(1958)(以下 DBM でしめす)<sup>注88</sup>、筆者によるマルマ語音韻表記との対応をしめせば (126) のようになる。

	WrB	ak	ac	at	ap	it	ip	ut	up	ɔk	ok
	SpB	ɛʔ	iʔ	aʔ	aʔ	eiʔ	eiʔ	ouʔ	ouʔ	auʔ	aiʔ
(126)	DBM	ɔʔ	eʔ	aʔ	aʔ	iʔ	iʔ	uʔ	uʔ	oʔ	eʔ
	(発音)	aoʔ	ɔiʔ	aiʔ	aiʔ	oiʔ	oiʔ	ouʔ	ouʔ	ɔoʔ	ɔiʔ
	M	aʔ	ɔiʔ	aiʔ	aiʔ	oiʔ	oiʔ	ouʔ	ouʔ	ɔʔ	ɔiʔ

代表例を (127)~(130) にあげる。

- (127) a. ⟨ak⟩ : /aʔ/ || ⟨lak⟩ : /ə-laʔ/ 「手」  
 b. ⟨ac⟩ : /ɔiʔ/ || ⟨tac⟩ : /toiʔ/ 「一」  
 c. ⟨at⟩ : /aiʔ/ || ⟨nat⟩ : /naiʔ/ 「精霊」  
 d. ⟨ap⟩ : /aiʔ/ || ⟨ap⟩ : /aiʔ/ 「針」
- (128) a. ⟨it⟩ : /oiʔ/ || ⟨cit⟩ : /coiʔ/ 「心」  
 b. ⟨ip⟩ : /oiʔ/ || ⟨lip⟩ : /loiʔ/ 「亀」
- (129) a. ⟨ut⟩ : /ouʔ/ || ⟨cut⟩ : /couʔ/ 「裂ける」  
 b. ⟨up⟩ : /ouʔ/ || ⟨lup⟩ : /louʔ/ 「する」
- (130) a. ⟨ɔk⟩ : /ɔʔ/ || ⟨ɔk⟩ : /ɔʔ/ 「下」  
 b. ⟨ok⟩ : /ɔiʔ/ || ⟨lok⟩ : /loiʔ/ 「追いかける」

⟨ak⟩ でおわるもののうち ⟨wak⟩ となるものは例外自体が規則的で、このときは /wɔʔ/ で対応する。

- (131) ⟨wak⟩ : /wɔʔ/ || ⟨wak⟩ : /wɔʔ/ 「豚」

<sup>注88</sup> ここでは代表的音声表記のみをあげる。異音については 2.3.2.1 の (50) でしめた。



ビルマ文語の鼻音末子音についてビルマ口語、D. BERNOT(1958)、筆者によるマルマ語音韻表記との対応をしめせば (132) のようになる。

(132)	WrB	ang	añ	an	am	in	im	un	uñ	on	oñ
	SpB	iŋ	i/e/ε	aŋ	aŋ	eiŋ	eiŋ	ouŋ	ouŋ	auŋ	aiŋ
	DBM	ɔŋ	eñ	añ	añ	iñ	iñ	uñ	uñ	oñ	eñ
	(発音)	ɑɔŋ	ɔeñ	aeñ	aeñ	oiñ	oiñ	ouñ	ouñ	ɔoñ	ɔeñ
	M	aŋ	e	aiŋ	aiŋ	iŋ	iŋ	uŋ	uŋ	ɔŋ	ɔiŋ

代表例を (133)~(136) にあげる。

- (133) a. <añ> : /aŋ/ || <hang<sup>2</sup>> : /háŋ/ 「野菜」  
 b. <añ> : /e/<sup>注89</sup> || <prañ> : /pre/ 「国」  
 c. <an> : /aiŋ/ || <chan> : /chaiŋ/ 「米」  
 d. <am> : /aiŋ/ || <wam<sup>2</sup>> : /ə-wáŋ/ 「腹」

- (134) a. <in> : /iŋ/ || <a-khyin> : /ə-khiŋ/<sup>注90</sup> 「時間」  
 b. <im> : /iŋ/ || <tim> : /tiŋ/ 「浅い」

- (135) a. <un> : /uŋ/ || <khun> : /khuŋ/ 「跳ねる」  
 b. <uñ> : /uŋ/ || <lum<sup>2</sup>> : /lúŋ/ 「丸い」

- (136) a. <on> : /ɔŋ/ || <ong> : /ɔŋ/ 「勝つ」  
 b. <oñ> : /ɔiŋ/ || <chong> : /choiŋ/ 「商店」

絶対語頭が <im> の場合は /wiŋ/ で対応する。

- (137) #-: <im> : /wiŋ/ || <im> : /wiŋ/ 「家」

<ang> でおわるもののうち <wang> となるものは例外自体が規則的で、このときは /wɔŋ/ で対応する<sup>注91</sup>。

<sup>注89</sup> 二例だけ /ɔiŋ/ で対応するものが確認されている。

(i) <añ> : /ɔiŋ/ || <khyañ> : /khyɔiŋ/ 「しばる」  
 <khyañ> : /khyɔiŋ/ 「すっぱい」

<sup>注90</sup> 介音として [j] がないことに注意。ただし PRU(1993) などではバングラ文字で (y) がかかっている。これは方言差なのかもしれない。しかし、むしろビルマ語のつづり字の影響であるようにおもわれる。

<sup>注91</sup> <ang> でおわるもののうち、(138) にあげる例外以外にも一例だけ /ɔŋ/ で対応するもの

(138) ⟨wang⟩ : /wɔŋ/ || ⟨wang⟩ : /wɔŋ/ 「入る」

### 3.2 母音

ビルマ文語の開音節の母音について、ビルマ口語、筆者によるマルマ語音韻表記との対応をしめせば (139) のようになる。

	WrB	a	aa	i	ii	u	uu	ei	ai	ɔ	o
(139)	SpB	a	a	i	i	u	u	e	ɛ	ɔ	o
	M	a	a	i	i	u	u	i	e	ɔ	o/u

代表例を (140)~(144) にあげる。

- (140) a. ⟨a⟩ : /a/ || ⟨la<sup>3</sup>⟩ : /lǎ/ 「月」  
 b. ⟨aa⟩ : /a/ || ⟨laa⟩ : /la/ 「来る」
- (141) a. ⟨i⟩ : /i/ || ⟨phi<sup>3</sup>⟩ : /phĩ/ 「つぶす」  
 b. ⟨ii⟩ : /i/ <sup>注92</sup> || ⟨chii⟩ : /chi/ 「油」
- (142) a. ⟨u⟩ : /u/ || ⟨u<sup>3</sup>⟩ : /ũ/ 「卵」  
 b. ⟨uu⟩ : /u/ || ⟨luu⟩ : /lu/ 「人間」
- (143) a. ⟨ei⟩ : /i/ <sup>注93</sup> || ⟨lei⟩ : /li/ 「風」  
 e. ⟨ai⟩ : /e/ <sup>注94</sup> || ⟨sai<sup>2</sup>⟩ : /θé/ 「砂」

が確認されている。

- (i) ⟨ang⟩ : /ɔŋ/ || ⟨tha-mang<sup>2</sup>⟩ : /thə\_mɔŋ/ 「ご飯」

<sup>注92</sup> ビルマ文語の ⟨ii⟩ がマルマ語では /e/ で対応しているものが一例だけ確認されている。

- (i) ⟨ii⟩ : /e/ || ⟨dii⟩ : /de/ 「この」

<sup>注93</sup> ビルマ文語の ⟨ei⟩ がマルマ語では /e/ で対応しているものが一部みられる。語例はそれほどおおくないので、こちらが不規則な対応であるとおもわれる。

- (i) a. /khywé/ 「汗」 : WrB ⟨khywei<sup>2</sup>⟩  
 b. /lé/ 「四」 : WrB ⟨lei<sup>2</sup>⟩  
 c. /ŋwe/ 「銀」 : WrB ⟨ngwei⟩  
 d. /jwe/ 「金」 : WrB ⟨hrwei⟩

<sup>注94</sup> ビルマ文語の ⟨ai⟩ がマルマ語では /a/ で対応しているものが一例だけ確認されている。

- (i) ⟨ai⟩ : /a/ || ⟨nai<sup>3</sup>⟩ : /nǎ/ 「で (具格標識)」

(144) ⟨o⟩ : /ɔ/<sup>注95</sup> || ⟨ro<sup>2</sup>⟩ : /rɔ/ 「混ぜる」

ビルマ文語の ⟨o⟩ に対応するマルマ語は、第一声調、第三声調では/o/、第二声調では/u/である<sup>注96</sup>。

- (145) a. ⟨o⟩ : /o/ || ⟨pyo⟩ : /pyo/ 「若い」  
b. ⟨o<sup>3</sup>⟩ : /ɔ̃/ || ⟨po<sup>3</sup>⟩ : /pɔ̃/ 「おくる」  
c. ⟨o<sup>2</sup>⟩ : /ú/ || ⟨po<sup>2</sup>⟩ : /pú/ 「背負う」

### 3.3 マルマ語に特徴的な点

ビルマ文語と比較した場合、特にマルマ語に顕著な点について記述する。

#### 3.3.1 離隔同化

ビルマ文語で CV の構造をもつ語のなかには、マルマ語では CVŋ で対応するものがいくつかある<sup>注97</sup>。(146)~(148) に代表例をあげる<sup>注98</sup>。

<sup>注95</sup> ビルマ文語の ⟨o⟩ についてはつぎに示すような不規則な対応も散見される。

- (i) a. ⟨o⟩ : /o/ || ⟨co⟩ : /co/ 「臭う」  
b. ⟨o⟩ : /u/ || ⟨myo<sup>2</sup>⟩ : /myú/ 「流れる」

<sup>注96</sup> ただしマルマ人の中心地であるバンドルバン地方のマルマ語では、いずれの場合も/o/で対応しているようである。

<sup>注97</sup> 同様の対応例は、一例のみであるが、藪 (1981) によるビルマ語タウンヨウ方言にもみられる。

- (i) 藪 (1981: 173) /mlun/ 「蛇」: WrB ⟨mrwei⟩、OB *mruiy* (本稿における OB 形式は LUCE (1981) による)

ビルマ語アラカン方言について詳細な報告をした OKELL (1995) によると、アラカン方言においても同様の対応が規則的におこなわれていることがわかる (OKELL 1995: 10-11)。

<sup>注98</sup> 代表例以外にもつぎのような語例が確認されている。

- (i) a. /ə-mwɪŋ/ 「母」: WrB ⟨a-mei⟩ (ただしこの例は声調の対応が不規則)  
b. /θə-mwɪŋ/ 「娘」: WrB ⟨sa-mii<sup>2</sup>⟩  
c. /mrwɪŋ/ 「孫」: WrB ⟨mrei<sup>2</sup>⟩  
d. /mwɪŋ/ 「産む・産まれる」: WrB ⟨mwei<sup>2</sup>⟩  
e. /mwɪŋ/ 「忘れる」: WrB ⟨mei<sup>3</sup>⟩  
(ii) a. /hmwɪŋ/ 「かきまぜる」: WrB ⟨hmwei⟩  
b. /hmwɪŋ/ 「香り」: WrB ⟨hmwei<sup>2</sup>⟩  
c. /hmwɪŋ/ 「グルグルまわす」: WrB ⟨hmwei<sup>3</sup>⟩  
(iii) a. /niŋ/ 「居る」: WrB ⟨nei⟩  
b. /niŋ-ra-θi/ 「夏」: WrB ⟨nwei-raa-sii⟩

- (146) a. /mrwiŋ/ 「土」 : WrB ⟨mrei⟩、OB *mliy*  
 b. /mrwiŋ/<sup>注99</sup> 「蛇」 : WrB ⟨mrwei⟩、OB *mruiy*  
 c. /mwŋ/ 「火」 : WrB ⟨mii<sup>2</sup>⟩、OB *miy*
- (147) a. /niŋ/ 「太陽」 : WrB ⟨nei⟩、OB *niy*  
 b. /niŋ/ 「暖かい」 : WrB ⟨nwei<sup>2</sup>⟩、OB の対応例未確認  
 c. /niŋ/ 「赤」 : WrB ⟨ni⟩、OB *nī*
- (148) /ŋiŋ/ 「弟」 : WrB ⟨ñii⟩、OB *ñiy, nī*

CV→CVŋ となる条件について (146)~(148) から観察されることをまとめれば (149) のようになる。

- (149) a. 初頭子音は鼻音である。  
 b. 母音は、ビルマ文語で対応するものが ⟨ei⟩<sup>注100</sup> または ⟨i⟩、⟨ii⟩ であり、マルマ語では /iŋ/ として実現する<sup>注101</sup>。  
 c. /m/ に /i/ が後続する場合、/w/ が挿入される (146c)。  
 d. /n/ に /i/ が後続する場合、⟨w⟩ が脱落する (147b)<sup>注102</sup>。

### 3.3.2 介音挿入

D. BERNOT(1958: 286) にも指摘されているように、/h/ や /θ/ に /i/ が後続する場合、/w/ があらわれる例がある。現在確認されているのは (150) にあげる三例のみである。

- 
- c. /niŋ-dóŋ/ 「毎日」 : WrB ⟨nei<sup>3</sup> tong<sup>2</sup>⟩  
 (iv) /hnŋ/ 「剥ぐ」 : WrB ⟨hnwei<sup>2</sup>⟩  
 (v) /ŋiŋ/ 「平たい」 : WrB ⟨ñii-ñaa⟩

<sup>注99</sup> ただし脚注 86 でもふれたように、この語は方言によっては /mwŋ/、/mrŋ/ ともなるようである。

<sup>注100</sup> LUCE(1981) の資料によると、ビルマ文語の ⟨ei⟩ は古代ビルマ語では *iy* で対応することがおおい。よりふるい時代を基準にかんがえると、マルマ語の離隔同化は鼻子音と母音 *i* が連続する場合におきると解釈できるものとおもわれる。

<sup>注101</sup> 一部の借用語の例をのぞき、マルマ語では *mi* や *ni* といった語形は観察されないことから、この変化は規則的な変化であるとおもわれる。

<sup>注102</sup> いずれの鼻音に後続する場合でも ⟨w⟩ は脱落し、鼻音が /m/ の場合にのみあとから /w/ が挿入されるとかんがえることもできる。そのほうが規則に統一性がとれてはいる。しかし ⟨mw⟩ > \*m > /mw/ といった変化があったことをしめすたしかな証拠はない。

- (150) a. /rwi/ 「数える」 : WrB ⟨rei⟩  
 b. /rwí/ 「書く」 : WrB ⟨rei<sup>2</sup>⟩  
 c. /nə\_θwí/ 「嘴」 : WrB ⟨hnut-sii<sup>2</sup>⟩

しかしそうはならない例もある。(151) に語例をあげる。

- (151) /ri/ 「水」 : WrB ⟨rei⟩

「水」は複合語では/re/であられるので、(150) の例とはことなる変化をしている可能性がある。

- (152) a. /lə-re/ 「精液」 < /lí/ 「男性器」 + /re/ 「水」 (ただし複合語でのみ)  
 b. /háŋ-re/ 「スープ」 < /háŋ/ 「野菜」 + /re/ 「水」 (ただし複合語でのみ)  
 c. /myaʔ-re/ 「涙」 < /myaʔ/ 「目」 + /re/ 「水」 (ただし複合語でのみ)

#### 4 おわりに

以上、本稿ではマルマ語の音声について現段階で観察される特徴を記述し、分析をほどこした。その結果、マルマ語は母音や末子音についてはおおきな変化をとげたものの、頭子音についてはビルマ語のよりふるい形式をよくのこしていることがあきらかとなった。

マルマ語の音声学・音韻論については D. BERNOT(1958) に報告があるものの、かならずしも網羅的に語彙が提示されているわけではなく、特に二重母音については筆者の観察とことなるところがすくなくなかった。これらのちがいは D. BERNOT(1958) が記述したバンドルバン地方のマルマ語と、筆者が記述したラージョストリ地方のマルマ語のちがいによる可能性がある。D. BERNOT(1958) が明確には指摘しなかった点としては、離隔同化があげられる。

今後さらに資料の収集、分析をつづけ、将来の比較言語学的研究につなげたい。

## 記号・略号一覧

I	話し手の人称
-	音節境界: /CV_CV/など <sup>注103</sup>
-	マルマ語音素表記としては形態素境界: /CV-CV/など ビルマ文語表記としては文字境界: <CV-CV> など
=	接辞境界: /CV=CV/など
/.../	マルマ語音素表記
<...>	ビルマ文語表記
FUT	未来
PL	複数
PCL	小辞
C	子音
V	母音
N	鼻音
Bangla	バングラ語 (Bangla)
DBM	D. BERNOT(1958) によるマルマ語
Eng.	イングランド語 (English)
OB	古代ビルマ語 (Old Burmese)
Pali	パーリ語 (Pali)
SpB	ビルマ口語 (Spoken Burmese)
WrB	ビルマ文語 (Written Burmese)

<sup>注103</sup> 現段階で形態素分析できない場合は、さしあたり音節境界をしめした。

## 附録 1

本稿におけるビルマ文字とビルマ文語 (WrB)、ビルマ語口語 (SpB) との対応を図示すれば、概略以下のとおりである。声調は語の右肩に対応する数字を付すことであらわす。<sup>2</sup> は高平調、<sup>3</sup> は下降調をしめす。低平調は特に表記しない。

ビルマ文字	က	ခ	ဂ	ဃ	င
WrB	<k>	<kh>	<g>	<gh>	<ng>
SpB 代表音	[k]	[k <sup>h</sup> ]	[g]	[g]	[ŋ]
ビルマ文字	စ	ဆ	ဇ	ည	ဉ
WrB	<c>	<ch>	<j>	<jh>	<ñ>
SpB 代表音	[s]	[s <sup>h</sup> ]	[z]	[z]	[ɲ]
ビルマ文字	တ	ထ	ဒ	ဓ	ဏ
WrB	<t>	<th>	<d>	<dh>	<n>
SpB 代表音	[t]	[t <sup>h</sup> ]	[d]	[d]	[n]
ビルマ文字	တ	ထ	ဒ	ဓ	န
WrB	<t>	<th>	<d>	<dh>	<n>
SpB 代表音	[t]	[t <sup>h</sup> ]	[d]	[d]	[n]
ビルマ文字	ပ	ဖ	ဗ	ဘ	မ
WrB	<p>	<ph>	<b>	<bh>	<m>
SpB 代表音	[p]	[p <sup>h</sup> ]	[b]	[b]	[m]
ビルマ文字	ယ	ရ	လ	ဝ	
WrB	<y>	<r>	<l>	<w>	
SpB 代表音	[j]	[j]/[r]	[l]	[w]	
ビルマ文字	ဆ	ဟ	ဠ	့	
WrB	<s>	<h>	<l>	<m̃>	
SpB 代表音	[ʃ]	[h]	[l]	[̃]	
ビルマ文字	အ	အိ	အု	အေ	အို
WrB	<a>	<i>	<u>	<ei>	<o>
SpB 代表音	[ʔa]	[ʔi]	[ʔu]	[ʔe]	[ʔo]
ビルマ文字	အာ	အီ	အူ	အဲ	အော
WrB	<aa>	<ii>	<uu>	<ai>	<o>
SpB 代表音	[ʔa]	[ʔi]	[ʔu]	[ʔe]	[ʔo]

## 附録 2

附録として、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所編(1966)の調査項目のうち 0001 から 1000 までについて、筆者の収集したマルマ語形式をしめす。

0001	頭	ə-góŋ	0025	乳房	nǒ
0002	髪	chaiŋ_baŋ	0026	腹	ə-wáŋ
0003	額	nə_phú_ja	0027	臍	khyáʔ
0004	眉	myaʔ-roiʔ	0028	腕	ə-laʔ
0005	目	myaʔ-ci	0029	肘	táŋ_don
0006	涙	myaʔ-re <sup>注104</sup>	0030	手	ə-laʔ
0007	耳	ná	0031	指	laʔ-hŋyú
0008	鼻	nə_khóŋ	0032	爪	laʔ-θé
0009	口	pə_jǎ	0033	足	ə-khri
0010	唇	nə_khwáŋ	0034	膝	dú_choiʔ
0011	舌	ja	0035	肝臓	ə-θé
0012	唾	táŋ_chí	0036	心臓	ə-hnə-lúŋ
0013	齒	θwá	0037	腸	u
0014	顎	ɔʔ_mwíŋ	0038	肌	ə-ri
0015	頬	pá	0039	汗	khywé
0016a	口髭	mə_chwí	0040	垢	ə-hŋŋ
0016b	顎髭	bə_ráŋ	0041	膿	pre
0017	顔	myaʔ-hna	0042	毛	ə-mwíŋ
0018	首	loiŋ-pháŋ	0043	脂肪	ə-chi
0019	喉	loiŋ-khrón	0044	血	θwí
0020	肩	paʔ-kúŋ	0045	骨	ə-rú
0021	背中	noʔ-kúŋ	0046	肉	ə-θá
0022	腰	khá	0047	体	khaiŋ_tha
0023	尻	kyoʔ_choiʔ	0048	病氣	khaiŋ_tha
0024	胸	raŋ-phaiʔ			mə-kón <sup>注105</sup>

<sup>注104</sup> myaʔ-ri(「目」myaʔ+「水」ri)という語形が予想されるが、myaʔ-ri といえば「まぶた」(「目」myaʔ+「肌」ə-ri)のことをさす。

<sup>注105</sup> 「体」+「よくない」。

<sup>注106</sup> 「痛み」。



0049	傷	ə-na <sup>注106</sup>	0079	衣服	ə-wai?
0050	葉	chí	0080	紙	ca?_kuŋ
0051	米	chaiŋ	0081	物	waiŋ
0052	粉	mɔi_da <sup>注107</sup>	0082	蛇	mrwiŋ <sup>注108</sup>
0053	塩	chá	0083	虫	pú
0054	油	chi	0084	蠅	yaŋ
0055	酒	ə-ra?	0085	蚊	khraŋ
0056	タバコ	chə_loi?	0086	蚤	—
0057	味	ə-harǎ	0087	虱	θáiŋ
0058	におい	ə-nǎiŋ	0088	蟻	pro?_cí
0059	食べ物	ə-ca	0089	魚	ŋá
0060	(食用の) 肉	háŋ-θá	0090	貝	gúŋ
0061	卵	ũ	0091	動物	θai?_do_wa
0062	鶏	kra?	0092	獺	poŋ_loŋ
0063	鳥	hja?	0093	網	kwaiŋ
0064	翼	ə-toŋ	0094	犬	khwí
0065	羽毛	ə-mwíŋ	0095	綱	krú
0066	巢	hja?-táŋ	0096	紐	krú
0067	嘴	nə_θwí	0097	羊	θáŋ_phwá-choi? <sup>注109</sup>
0068	角	ə-gro	0098	馬	mráŋ
0069	牛	nwá	0099	豚	wo?
0070	ナイフ	dá_je	0100	尻尾	mə_dúŋ
0071	刀	—	0101	動物の毛	ə-mwíŋ
0072	刃	ə-cóŋ	0102	毛皮	—
0073	棒	dou?	0103	袋	chá_la
0074	弓	hlé	0104	鍋	ko_rai?_ya <sup>注110</sup>
0075	矢	hlé_jú	0105	釜	—
0076	槍	hlaiŋ	0106	襖	duŋ_gə_la
0077	糸	khre	0107	壺	ú-kha?
0078	針	ai?	0108	屋根	wiŋ-khoŋ

<sup>注107</sup> Bangla mɔɔda

<sup>注108</sup> 方言によっては/mwiŋ/, /mriŋ/という語形もある。

<sup>注109</sup> 「船」+「山羊」。

<sup>注110</sup> Bangla koɔrai

0109	壁	thə_raiŋ	0139	池	kaiŋ
0110	窓	laʔ_tə_boʔ	0140	湖	gə_daiŋ
0111	扉	láiŋ-khə_wă	0141	海	mroiʔ
0112	家	wiŋ	0142	島	kywáiŋ
0113	車	ká <sup>注111</sup>	0143	水	ri
0114	船	loŋ <sup>注112</sup>	0144	冰	rə-khé
0115	井戸	rə-dwóŋ	0145	石	kyoʔ
0116	仕事	ə-louʔ	0146	土	mrwiŋ
0117	お金	ŋwe	0147	砂	θé
0118	木	ə-paŋ	0148	埃	pə_rə_phouʔ
0119	幹	—	0149	煙	mə_khú
0120	枝	ə-khaʔ	0150	灰	pra
0121	草	mraʔ	0151	火	mwíŋ
0122	莖	—	0152	風	li
0123	根	ə-mroiʔ	0153	雲	mú-roiʔ <sup>注113</sup>
0124	葉	phaʔ-rwoʔ	0154	霧	hnánŋ
0125	花	páiŋ	0155	雨	mú
0126	実	ə-θí	0156	雪	rə-khé-bran <sup>注114</sup>
0127	種	ə-cí	0157	空	góŋ_khan
0128	樹皮	θoiʔ-khwaiŋ			a_ga
0129	田	le	0158	虹	θə_dán_ri_θoʔ
0130	林	tó	0159	太陽	niŋ
0131	森	—	0160	月(天体)	lä
0132	道	láiŋ	0161	影	ə-roiʔ
0133	穴	ə-poʔ	0162	星	kre
0134	橋	táiŋ-khá	0163	日	raʔ
0135	川	khyóŋ	0164	毎日	níŋ-dóŋ
0136	山	toŋ	0165	週	haʔ_taʔ
0137	野	ə-praŋ	0166	月(曆)	lä
0138	平野	ə-ŋiŋ-bran	0167	年	hnoiʔ

<sup>注111</sup> Eng. car

<sup>注112</sup> Bangla. loñc < Eng. launch?

<sup>注113</sup> 「雨」 + 「影」。

<sup>注114</sup> 「冰」 + 「野」。

0168	朝	ŋě-gă	0191	いくら	ja hloʔ <sup>注118</sup>
0169	昼間	mwáin-jón	0192	いくつ	hmya khǔ <sup>注119</sup>
		món-jón	0193	半分	tə-bón
0170	夕方	chón-cha_bə_la	0194	全部	ə-kun
0171	夜	ŋě	0195	若干	lón-ŋə_khǔ
0172	昨日	ŋyă-gă	0196	数	gə_náin
0173	明日	hnaʔ_phrain	0197	年齢	ə-θaʔ
0174	今日	də-ní	0198	回	tə-khoʔ
0175	今	ə-gǔ			tə-brain
0176	いつ	jə-kha <sup>注115</sup>	0199	夫	lan
0177	何時(に)	hmya	0200	妻	mə_yá
		na_ri=ma <sup>注116</sup>	0201a	結婚	ə-mrá
0178	時間	na_ri	0201b	結婚式	ə-mrá-bwé
		ə-khin	0202	父	ə-phă
0179	一	toiʔ	0203	母	ə-mwín
0180	二	hnóiʔ	0204	祖父	ə-phú-θe
0181	三	θún	0205	祖母	ə-bón-θe
0182	四	lé	0206	息子	θá
0183	五	ŋá	0207	娘	θə_mwín
0184	六	khroʔ	0208	子供	ə-fe
0185	七	khə_nóiʔ	0209	動物の仔	ə-fe
0186	八	joiʔ	0210	孫	mrwín
0187	九	kú	0211	兄	ə-ko-θe <sup>注120</sup>
0188	十	tə-che			món-θe <sup>注121</sup>
0189	二十	hnóiʔ-che	0212	姉	ə-me-θe <sup>注122</sup>
0190	百	tə-ra <sup>注117</sup>			

<sup>注115</sup> 例: ko\_baŋ jə-kha la ca lé? 「あなたはいつ来ましたか」

<sup>注116</sup> 例: ko\_baŋ hmya na\_ri=ma la ca lé? 「あなたは何時に来ましたか」

<sup>注117</sup> təは「一」。raが「百」をあらわす。

<sup>注118</sup> 例: de-θu ja hloʔ lé? 「これはいくらですか」

<sup>注119</sup> 例: ko\_baŋ=bón\_ma bwé hmya khǔ hín re lé? 「あなたのところには本が何冊ありますか」

<sup>注120</sup> 弟からみた兄。

<sup>注121</sup> 妹からみた兄。

<sup>注122</sup> 弟からみた姉。

		oiʔ-mă-θe <sup>注123</sup>	0230	彼女	yáŋ-mə_mă
0213	弟	ŋiŋ-fe <sup>注124</sup>	0231a	私達	ŋə=rõ
		mɔŋ-fe <sup>注125</sup>	0231b	私達(謙讓形)	kywaiŋ=rõ
0214	妹	nə_hmă-fe <sup>注126</sup>	0232a	あなた達(男)	ko_baŋ=rõ
		ŋyo_mă-fe <sup>注127</sup>	0232b	あなた達(女)	ko_baŋ-mă=rõ
0215	兄弟	ŋiŋ-ko	0233	彼ら	yáŋ-θu=rõ
0216	姉妹	ŋyõŋ-mă	0234	彼女ら	yáŋ-mə_mă=rõ
0217	家族	wiŋ-thoŋ	0235	自分	ko_dɔiŋ
0218	友達	khaŋ_bóŋ	0236	他の	ə-khrá
		moiʔ_chwi	0237	誰	ə-θu lé <sup>注130</sup>
0219	喧嘩	raiŋ	0238	名	naŋ_me
0220	力	á	0239	名前	naŋ_me
0221	唾	pə_bwá	0240	字	aʔ_khəra
0222	聾	nə_báŋ	0241	声	ə-θaiŋ
0223	盲	ə-káŋ	0242	音	ə-θaiŋ
0224	男	yɔʔ-kyá	0243	言葉	cə_gá
0225	女	mə_mă			a-hmouʔ
0226	人間	lu	0244	心	coiʔ
0227a	私	ŋa	0245	神	phə_rá
0227b	私(謙讓形)	ə-kywaiŋ	0246	祭	pwé
		kywaiŋ_dɔ	0247	村	rwa
0228a	あなた(男)	maiʔ	0248	町	mrõ
0228b	あなた(女)	naŋ	0249	これ	de
0228c	あなた(男)	ko_baŋ <sup>注128</sup>	0250	それ	the
0228d	あなた(女)	ko_baŋ-mă <sup>注129</sup>	0251a	あれ	yáŋ <sup>注131</sup>
0229	彼	yáŋ-θu			

注123 妹からみた姉。

注124 兄からみた弟。

注125 姉からみた弟。

注126 兄からみた妹。

注127 姉からみた妹。

注128 敬称。

注129 敬称。

注130 例: ko\_baŋ ə-θu lé? 「あなたは誰ですか」

注131 みえないものに対してつかう。

0251b	あれ	thú <sup>注132</sup>	0264	どちら	je=dō <sup>注142</sup>
0252	どれ	ja-θu <sup>注133</sup>	0265	場所	ə-ra
0253	なに	ja <sup>注134</sup>			ne.ra
0254	なぜ	ja-phō <sup>注135</sup>	0266	左	be
0255	これら	de-θu=rō	0267	右	ŋya
0256	どのように	ja-poiŋ	0268	前	hri
		pyaŋ=rō <sup>注136</sup>	0269	後	no?
0257	ここ	də=ma	0270	内	ə-thé
0258	そこ	thə=ma	0271	外	praŋ
0259a	あそこ	yáŋ=ma <sup>注137</sup>	0272	間	ə-le
0259b	あそこ	thú=ma <sup>注138</sup>	0273	上	ə-tha?
0260	どこ	ja=ma <sup>注139</sup>	0274	下	o?
0261	こちら	de-bra?=ma	0275	見る	mraŋ
		de-pha?=ma	0276	見せる	pră
		de-phra?=ma	0277	聞く	krá
0262	そちら	the-bra?=ma	0278	嗅ぐ	naŋ
		the-pha?=ma	0279a	呼吸する(はく)	ə-θa? khyă
		the-phra?=ma	0279b	呼吸する(すう)	ə-θa? ŋaŋ
0261a	あちら	yáŋ-bra?=ma <sup>注140</sup>	0280	言う	pró
		yáŋ-pha?=ma	0281	呼ぶ	kho
		yáŋ-phra?=ma	0282	叫ぶ	hó
0261b	あちら	thú-bra?=ma <sup>注141</sup>	0283	歌う	é cho
		thú-pha?=ma	0284	踊る	kă
		thú-phra?=ma	0285	話す	pró

注132 みえるものに対してつかう。

注133 例: ko.baŋ ja-θu yu phō lé? 「あなたはどれをとりますか」

注134 例: de-θu ja lé? 「これはなにですか」

注135 例: ko.baŋ ja-phō la ca lé? 「あなたはなぜ来たのですか」

注136 例: ko.baŋ ja-poiŋ pyaŋ=rō la ca lé? 「あなたはどのようにして来たのですか」

注137 みえないところに対してつかう。

注138 みえるところに対してつかう。

注139 例: ko.baŋ ja=ma niŋ lé? 「あなたはどこにすんでいるのですか」

注140 みえないところに対してつかう。

注141 みえるところに対してつかう。

注142 例: ko.baŋ je=dō lá re lé? 「あなたはどちらに行っていますか」

0286	知らせる	θi=ji	0313	擦る	pwai?
0287	吸う	ə-θa? ɲaŋ	0314	搔く	phrə?
0288	吐く	aiŋ	0315	脹れる	raŋ
0289	唾を吐く	táin-chí bəi?	0316	歩く	lá
0290	噛む	kəi?	0317	踏む	náŋ
0291	笑う	re	0318	跳ねる	khun
0292	泣く	ŋo	0319	走る	brí
0293	喜ぶ	pyo	0320	蹴る	kyə?
0294	恐れる	kro?	0321	立つ	rai?
0295	悲しむ	coi? na <sup>注143</sup>	0322	座る	thəiŋ
0296	怒る	main pa <sup>注144</sup>	0323	這う	twá
0297	驚く	mó	0324	寝る	lé niŋ <sup>注148</sup>
0298	打つ	bou?	0325	眠る	oi?
0299	射る	bəi?	0326	目覚める	nú
0300	殴る	bou?	0327	起きる	thă
0301	治す	chí krě <sup>注145</sup>	0328	食べる	cá
0302	直す	pyaŋ	0329	飲む	θə?
0303	投げる	bəi?	0330	酔う	yəi?
0304	突く	thú	0331	飢える	mwai?
0305	刺す	ə-cwe thú <sup>注146</sup>	0332	喉が渴く	—
0306	砕く	coi?	0333	好む	kroi?
0307	壊れる	pya?	0334	嫌う	mún
0308	押す	tú	0335	腐る	pou?
0309	引っ張る	ɲaŋ	0336	割る	khwé
0310	持つ	— <sup>注147</sup>	0337	飛ぶ	pyaiŋ
0311	掴む	kəiŋ	0338	泳ぐ	ri kú <sup>注149</sup>
0312	触る	khəi?	0339	浮かぶ	pó

注143 「心」 + 「痛む」。

注144 「怒り」 + 「来る」。

注145 「薬」 + 「見る」。

注146 「牙」 + 「突く」。

注147 存在動詞をつかう。

例: ɲă=ma táin-ɲá hŋ re. 「わたしにはお金がある」

注148 「横になる」 + 「居る」

注149 「水」 + 「渡る」。

0340	沈む	noi?	0371	得る	rǎ
0341	裂く	chou?	0372	盗む	khú
0342	裂ける	cou?	0373	貸す	khí
0343	剥く	hníŋ	0374	借りる	khí
0344	潰す	phĩ	0375	熟する	hmě
0345	焼く	kyp	0376	折る	khyú
0346	煮る	prou?	0377	振る	hlou?
0347	追う	loi?	0378	取る	yu
0348	逃げる	brí	0379	掘る	tú
0349	殺す	θai?	0380	流れる	myú
0350	結ぶ	khyoiŋ	0381	登る	ta?
0351	ほどく	phri	0382	降りる	θa?
0352	放す	hrwai?	0383	上がる	ta?
0353	縫う	khrou?	0384	落ちる	kyǎ
0354	洗う	chí	0385	燃える	loŋ
0355	拭く	pwai?	0386	吹く	hmou?
0356	着る	wai?	0387	雨が降る	mú kyǎ <sup>注150</sup>
0357	脱ぐ	khywai?			rwa
0358	書く	rwí	0388	濡れる	cwai?
0359	読む	phai?	0389	乾く	θwĩ
0360	教える	θaŋ	0390	隠す	hrwo?
0361	切る	koi?	0391	探す	hra
0362	作る	lou?	0392	見つける	rǎ <sup>注151</sup>
0363	開ける	phwǒŋ	0393	数える	rwi
0364	閉める	poi?	0394	産む	mwíŋ
0365	住む	niŋ	0395	生まれる	mwíŋ
0366	働く	lou?	0396	育つ	kri <sup>注152</sup>
0367	疲れる	ŋyó	0397	死ぬ	θi
0368	休む	ná	0398	生きる	hraŋ
0369	買う	we	0399	遊ぶ	kəjá
0370	売る	rónŋ			

注150 「雨」+「落ちる」。

注151 「得る」。

注152 「大きくなる」。

0400	助ける	ə-ku pi <sup>注153</sup>	0426	ない	mə-hĩŋ <sup>注158</sup>
0401	待つ	cōŋ	0427	大きい	krí
0402	会う	twĩ	0428	小さい	je
0403	戦う	cói? choiŋ <sup>注154</sup>	0429	高い	mrǎŋ
0404	勝つ	ɔŋ	0430	低い	nĩŋ
0405	負ける	ǰũŋ	0431	太った	θaiŋ
0406	考える	cóiŋ-ǰá	0432	痩せた	khro?
0407	忘れる	mwĩŋ	0433	厚い	θaiŋ
0408	置く	thá	0434	薄い	pá
0409	乗る	ta? <sup>注155</sup>	0435	重い	lí
0410	出る	thwo?	0436	軽い	pó
0411	入る	wɔŋ	0437	強い	á=jaŋ
0412	来る	la	0438	弱い	ŋyó
0413	行く	lá	0439	痛い	na
0414	集める	cũ	0440	堅い	kyáŋ
0415	混ぜる	ró	0441	柔らかい	ŋě
0416	動く	rwĩ	0442	甘い	khyo
0417	合う	taiŋ	0443	塩辛い	ŋaiŋ
0418	与える	pí	0444	辛い	cai?
0419	する	lou? pyaŋ	0445	苦い	khá
0420	思う	cóiŋ-ǰá	0446	速い	práŋ
0421	知る	θĩ	0447	遅い	í
0422	欲する	tóŋ	0448	丸い	lúŋ
0423	できる	noŋ/hnoŋ <sup>注156</sup>	0449	鋭い	hrě
0424	ある	hĩŋ <sup>注157</sup>	0450	鈍い	túŋ
0425	居る	niŋ	0451	滑らか	khyó
			0452	まっすぐ	prōŋ

注153 「助け」+「与える」。

注154 「戦争」+「競争する」。

注155 原義は「上がる」。

注156 例: ŋa ma-rə-ma ba-θa noŋ re. 「わたしはマルマ語ができる」

ŋa ma-rə-ma ba-θa pró hnoŋ re. 「わたしはマルマ語が話せる」

注157 例: ŋǎ=ma táŋ-ǰá hĩŋ ca ə-chi ko-baŋ=go pí phǒ. 「わたしにあるだけのお金をあなたにあげよう」

注158 例: ŋǎ=ma táŋ-ǰá mə-hĩŋ. 「わたしにはお金がない」



0453	きれい	rwé	0477	白い	phru
0454	汚い	ɣyoi?	0478	黒い	mé
0455	長い	hre	0479	赤い	niŋ
0456	短い	to	0480	青い	mú-grú rɔŋ <sup>注159</sup>
0457	遠い	wí	0481	緑	ɣyo
0458	近い	pá	0482	黄色	ə-wa
0459	広い	phráiŋ	0483	色	ə-rɔŋ
0460	狭い	hrũŋ	0484	美しい	hlǎ
0461	熱い	pu	0485	良い	kóŋ
0462	寒い	khyáiŋ	0486	悪い	chú
0463	暖かい	núŋ	0487	正しい	hmaiŋ
0464	冷たい	mrǎ	0488	同じ	ə-tudu
0465	若い	pyo	0489	違った	ə-khrá
0466	老いた	o	0490	再び	praiŋ=bo
0467	新しい	θoi?	0491	もし	ə-kraŋ ...
0468	古い	hóŋ			to gǎ <sup>注160</sup>
0469	常に	raʔ_prai?	0492	はい	hwá_la <sup>注161</sup>
0470	満ちた	prě			oi <sup>注162</sup>
0471	多い	myá	0493	いいえ	mə-hou? pa <sup>注163</sup>
0472	少ない	né			e_hai? <sup>注164</sup>
0473	皆	ə-kun	0494	こんにちは	hrǐ khú
0474	明るい	lǎŋ			ba yǎ <sup>注165</sup>
0475	暗い	toi?	0495	さようなら	a_ra praiŋ
0476	光	ə-lǎŋ			bo twǐ me <sup>注166</sup>

<sup>注159</sup> 「雨」+「(虎が) 吠える」(「雷」)+「色」。

<sup>注160</sup> 例: ə-kraŋ ɲǎ=ma táiŋ\_ɲǎ hĩŋ to gǎ, ɲa ga\_rí we phǒ. 「もしもわたしにお金があれば車を買うのに」

<sup>注161</sup> 例: ko\_baŋ kyóŋ\_θá ba lǐ. 「あなたは学生ですか」

hlá\_wa, ə-kywaiŋ kyóŋ\_θá ba. 「はい、わたしは学生です」(丁寧)

<sup>注162</sup> 例: oi, ɲa kyóŋ\_θá. 「はい、わたしは学生です」(ぞんざい)

<sup>注163</sup> 例: mə-hou? pa, ə-kywaiŋ kyóŋ\_θá mə-hou?. 「いいえ、わたしは学生ではありません」(丁寧)

<sup>注164</sup> 例: e\_hai?, ɲa kyóŋ\_θá mə-hou?. 「いいえ、わたしは学生ではありません」(ぞんざい)

<sup>注165</sup> 「ごきげんいかがですか」。

<sup>注166</sup> 「またあいましょう」。

0496	で	ma	0523	砂糖	θə_grá
0497	および	nǎ=bo <sup>注167</sup>	0524	菓子	ə-khyo
0498	一緒に	ə-tu	0525	飲み物	ə-θɔ?
0499	である	— <sup>注168</sup>	0526	茶	lə_phá?
0500	でない	— <sup>注169</sup>	0527	湯	rə_bu
0501	脳	ũ_hno?	0528	牛乳	nǒ
0502	手のひら	la?-wá	0529	野菜	háŋ
0503	拳	la?-θí	0530	豆	pí-θí
0504	筋肉	krwɔ?-θá	0531	麦	gɔŋ <sup>注174</sup>
0505	肺	ə-chou?	0532	稻	cə_bá
0506	腎臓	ki_də_ni <sup>注170</sup>	0533	食事	thai?
0507	胃	wáŋ-khóŋ	0534	兎	yur
0508	大便	khí	0535	鼠	krwɔ?
0509	小便	θí	0536	牙	ə-cwe
0510	陰茎	lí	0537	猫	krɔŋ
0511	陰部	cə_ɔ	0538	烏	kyə_a
0512	裸	láŋ_gí	0539	鳩	khɔ
0513	くしゃみ	ə-khi	0540	猿	myɔ?
0514	咳	khróŋ-chú <sup>注171</sup>	0541	獣	θai?_do_wa
0515	欠伸	wa_θáŋ	0542	雄	ə-bo
0516	命	ə-θa?	0543	雌	ə-mǎ
0517	毒	ə-choi?	0544	犠牲	θé_khaiŋ
0518	飯	thə_móŋ	0545	毘	khou?
0519	パン	ru_tí <sup>注172</sup>	0546	籠	tóŋ
0520	芋	mrɔ?-θí	0547	箱	θɔi?_taiŋ
0521	穀物	—	0548	蓋	ə-phúŋ
0522	小麦粉	mɔi_da <sup>注173</sup>	0549	マツチ	mə_ŋaŋ

注167 例: ɲa nǎ=bo ko\_baŋ. 「わたしとあなた」

注168 例: ɲa kyóŋ\_θá. 「わたしは学生です」(繁辞はもちいない)

注169 例: ɲa kyóŋ\_θá mə-hou?. 「わたしは学生ではありません」

注170 Eng. kidney

注171 「喉」+「悪い」。

注172 Bangla ruṭi

注173 Bangla moida

注174 Bangla gom

0550	板	ə-hrwá	0575	柱	təiŋ
0551	ガラス	hmaiŋ	0576	便所	yəŋ
0552	瓶	pə.láŋ	0577	掃除	ə-hlé
0553	皿	ləŋ.báiŋ	0578	門	chaŋ-thwəʔ- chaŋ-wəŋ
0554	茶碗	khwəʔ			
0555	匙	jwáiŋ	0579	墓	θáiŋ.khyóŋ
0556	料理	ə-khyaʔ	0580	葬式	θáiŋ-gro-pwé
0557	鉄	kaiʔ.kyoiʔ	0581	金	ʃwe
0558	裁縫	ə-krouʔ	0582	銀	ŋwe
0559	櫛	ru-phrí	0583	銅	tə.ma <sup>注177</sup>
0560	鏡	hmaiŋ	0584	鉄	θaiŋ
0561	化粧	ə-hmwíŋ.naiŋ.θa	0585	機械	caʔ
0562	道具	caʔ	0586	自動車	ka <sup>注178</sup>
0563	帽子	təʔ.kya mɔ̃	0587	武器	θə.naiʔ
		thí	0588	太鼓	dúŋ
0564	傘	há	0589	鈴	gəŋ.da <sup>注179</sup>
0565	首飾り	laʔ-kəʔ	0590	笛	pri
0566	腕輪	caʔ.θí	0591	旗	ə-laiŋ
0567	輪	khə.báiŋ	0592	味方	moiʔ.chwi
0568	帯	pəŋ-phi	0593	敵	raiŋ-θu <sup>注180</sup>
0569	ズボン	phə.náiʔ	0594	戦争	cəiʔ
0570	靴	kráiŋ	0595	火事	mwíŋ.ləŋ <sup>注181</sup>
0571	床	khun	0596	罰	daiŋ
0572	机	ka.də.la <sup>注175</sup>	0597	税	phaiŋ.da
0573	椅子	ruŋ <sup>注176</sup>	0598	値段	ə-phú
0574	部屋		0599	本	bwe <sup>注182</sup>

<sup>注175</sup> バングラ語 *kedārā* からの借用とおもわれる。しかし母音の対応からすると、ポルトガル語の *cadeira*(SOARES 1936: 62) からきているのかもしれない。

<sup>注176</sup> Eng. room

<sup>注177</sup> Bangla tama

<sup>注178</sup> Eng. car

<sup>注179</sup> Bangla ghoŋthaʔ

<sup>注180</sup> 「喧嘩」+「人」。

<sup>注181</sup> 「火」+「燃える」。

<sup>注182</sup> Bangla boi

0600	新聞	θə_dáŋ-ja	0628	二月	kə_chuŋ
0601	絵	ə-rou?	0629	三月	naɪŋ-yuŋ
0602	手紙	káɪŋ-ja	0630	四月	wa_cho
0603	話	wai?_thũ	0631	五月	wa_khɔŋ
0604	歌	é	0632	六月	tó_θə_lán
0605	踊り	ə-kǎ	0633	七月	wa_gywai?
0606	旅	ə-le	0634	八月	taɪŋ_chɔŋ_bou?
0607	休み	ə-ná	0635	九月	nai?_to
0608	耕作	ə-thwaiŋ	0636	十月	pra_θo
0609	鋤	phə_lə_wa	0637	十一月	tə_bou?_thé
0610	鋤	ai?_kóɪŋ	0638	十二月	tə_bón
0611	白	chuŋ	0639	月曜日	tə_lán_la
0612	泉	ri-θwón_θwɔŋ	0640	火曜日	aŋ_ga
0613	谷	kyɔ?_krá	0641	水曜日	bə_dú
0614	岸	káɪŋ_ná	0642	木曜日	kra_θǎ_bə_dí
0615	波	rə-lóɪŋ <sup>注183</sup>	0643	金曜日	θɔ?_kra
0616	泡	ə-hmrɔu?	0644	土曜日	cə_nɪŋ
0617	雷	mú-grú <sup>注184</sup>	0645	日曜日	tə_lán_ŋə_nɪŋ
0618	稲光	ʃai?	0646	日	ra?
0619	空気	li	0647	時	ə-khiŋ
0620	天気	li-mú <sup>注185</sup>	0648	分	mə_nɪŋ <sup>注187</sup>
0621	雨季	mú-ra_θi	0649	秒	se_káɪŋ <sup>注188</sup>
0622	乾季	—	0650	午前	—
0623	春	—	0651	午後	—
0624	夏	nɪŋ-ra_θi	0652	おととい	thu-tə_ra?-nɪŋ
0625	秋	—	0653	あさって	θaiŋ-pha?-nɪŋ
0626	冬	chón-ra_θi	0654	先月	thu-lǎ
0627	一月 <sup>注186</sup>	táɪŋ_khúŋ	0655	来月	la me lǎ

注183 「水」+「うねり」。

注184 「雨」+「(虎が) 吠える」。

注185 「風」+「雨」。

注186 マルマ暦の一月は太陽暦の四月ごろからはじまる。

注187 Eng. minute

注188 Eng. second

0656	今年	de-hnoi?	0683	千	tə-thoŋ
0657	去年	thu-hnoi?	0684	万	che-thoŋ
0658	来年	la me hnoi?			tə-θoŋ
0659	昔	ə-yaŋ=gǎ=kha	0685	第一	pə.thə.mǎ
0660	いつか	tə.ra?	0686	第二	dǔ.də.yǎ
0661	以前	ə-yaŋ	0687	第三	tǎ.də.yǎ
0662	以後	noʔ-kǎ	0688	一人	tə-yoʔ
0663	はじめ	ə-cǎ	0689	二人	hnoiʔ-yoʔ
0664	おわり	ə-túŋ	0690	三人	θúŋ-yoʔ
		ə-chúŋ	0691	一日	pə.thə.mǎ ra?
0665	次	yáŋ-ə-prou?	0692	二日	dǔ.də.yǎ ra?
0666	零	θuŋ-ŋyǎ	0693	三日	tǎ.də.yǎ ra?
0667	十一	tə-chě-toi?	0694	一番	pə.thə.mǎ
0668	十二	tə-chě-hnoi?			naiŋ.bai?
0669	十三	tə-chě-θúŋ	0695	夕力 <sup>注189</sup>	táŋŋ.ŋá
0670	十四	tə-chě-lé	0696	歳	ə-θa?
0671	十五	tə-chě-ŋá	0697	赤ん坊	θu-ŋe
0672	十六	tə-chě-khroʔ	0698	大人	ə-rǎŋ
0673	十七	tə-chě-khə.noi?	0699a	年寄り(男)	wa-grí
0674	十八	tə-chě-foi?	0699b	年寄り(女)	wa-grí-mǎ
0675	十九	tə-chě-kú	0700	親	ə-mǔiŋ ə-phǎ
0676	三十	θúŋ-che	0701	夫婦	laŋ-mə.yá
0677	四十	lé-che	0702	先祖	ə-phú ə-phí
0678	五十	ŋá-che	0703a	甥	θá <sup>注190</sup>
0679	六十	khroʔ-che	0703b	甥	tu <sup>注191</sup>
0680	七十	khə.noiʔ-che	0704a	姪	θə.mwíŋ <sup>注192</sup>
0681	八十	foiʔ-che	0704b	姪	tu-mǎ <sup>注193</sup>
0682	九十	kú-che	0705a	いとこ	yoʔ-phǎ-θe <sup>注194</sup>

注189 バングラデシュの通貨単位。

注190 自分と同性の兄弟姉妹の息子。

注191 自分と異性の兄弟姉妹の息子。

注192 自分と同性の兄弟姉妹の娘。

注193 自分と異性の兄弟姉妹の娘。

注194 母の兄弟の息子。父の姉妹の息子。

0705b	い	ə-kə-θe <sup>注195</sup>	0726	世界	gə_ba
0705c	い	ŋiŋ-fe <sup>注196</sup>	0727	寺	kyóŋ
0705d	い	mə_rí-θe <sup>注197</sup>	0728	学校	kyóŋ
0705e	い	khre-mă-θe <sup>注198</sup>	0729	市場	jí
0705f	い	nə_hmă <sup>注199</sup>	0730	商店	choiŋ
0706	親戚	ə-myú ə-chwi	0731	住所	ne_rai?
0707	挨拶	ro_θi	0732	隣り	naiŋ-brán
0708	様	—	0733	境界	ə-ná
0709	答	ə-phre	0734	東	ə-hrí-pha?
0710	返事	ə-phre	0735	西	ə-no?-pha?
0711a	先生(男)	chə_ra	0736	南	toŋ-pha?
0711b	先生(女)	chə_ra-mă	0737	北	mro?-pha?
0712a	生徒(男)	tə_bě	0738	方向	pha?
0712b	生徒(女)	tə_bě-mă	0739	尖	ə-phyá
0713	主人	ə-rán=[aŋ	0740	縦	ə-yá
0714	王	máŋ	0741	横	ə-naiŋ
0715	役人	—	0742	幅	ə-naiŋ
0716	商人	kuŋ-θe	0743	かたわら(に)	naiŋ=ma
0717	医者	da?_to	0744	周り	lé_pha?_la?_cǐ
0718	職業	ə-lou?	0745	表	mya?-hna <sup>注200</sup>
0719	びっこ	ə-kyú	0746	裏	no?-kúŋ <sup>注201</sup>
0720	泥棒	θə_khú	0747	陰	ə-roi?
0721	馬鹿	bó_lá	0748	中	ə-le
0722	気持ち	coi?	0749	底	phan
0723	夢	oi?-ma?	0750	丸	ə-wáŋ
0724	意味	ə-doi?_pe	0751	線	ə-króŋ
0725	国	pre	0752	印	ə-hmai?

注195 母の姉妹の自分よりも年長の息子、父の兄弟の自分よりも年長の息子。

注196 母の姉妹の自分よりも年少の息子、父の兄弟の自分よりも年少の息子。

注197 母の兄弟の自分よりも年長の娘。父の姉妹の自分よりも年長の娘。

注198 母の兄弟の自分よりも年少の娘。父の姉妹の自分よりも年少の娘。

注199 母の姉妹の娘、父の兄弟の娘。

注200 「顔」。

注201 「背中」。

0753	形	puŋ			wɔŋ <sup>注208</sup>
0754	おのおの	=dɔiŋ <sup>注202</sup>	0777	安心する	ə-cɔiŋ-já túŋ <sup>注209</sup>
0755	なにか	khyañ_ra	0778	愛する	khyoi?
		phroi? tə_khǔ	0779	祈る	kú_gwe
0756	噛む	koi?	0780	拝む	pə_jo
0757	舐める	ya?	0781	真似る	khú
0758	(犬が) 吠える	hɔŋ	0782	比べる	hmyǎ
0759	鳴く	twaiŋ			hnúŋ
0760	気づく	ə-hmai? kyǎ <sup>注203</sup>	0783	選ぶ	kroi?
0761	覚える	two?	0784	引く	ŋaŋ
0762	思い出す	ə-two? kyǎ <sup>注204</sup>	0785	測る	khraŋ
0763	信ずる	kyuŋ	0786	手伝う	ə-ku pi <sup>注210</sup>
0764	迷う	coi? fou? <sup>注205</sup>	0787	育てる	mwíŋ-jai?
0765	疑う	yú	0788	飼う	mwíŋ-jai?
0766	問う	mwíŋ	0789	釣る	ŋá hmyǎ <sup>注211</sup>
0767	答える	phre	0790	捕まえる	pháiŋ
0768	命ずる	a_na khyǎ <sup>注206</sup>	0791	握る	khyoi?-pɔ koiŋ
0769	禁ずる	háŋ	0792	落とす	boi?
0770	詫びる	ə-hmá khaiŋ <sup>注207</sup>	0793	拾う	pho
0771	誉める	ə-pho khi	0794	捨てる	wé
0772	叱る	hɔ?	0795	なくなる	pyɔ?
0773	騙す	liŋ	0796	埋める	hmrou?
0774	苦しむ	khaiŋ	0797	かぶせる	phúŋ
0775	困る	khaiŋ	0798	包む	thou?
0776	心配する	ə-cɔiŋ-já	0799	吊るす	chwé

注202 例: khǔ=dɔiŋ 「おのおののもの」。

注203 「印」+「落ちる」。

注204 「記憶」+「落ちる」。

注205 「心」+「グラグラしている」。

注206 「命令」+「落とす」。

注207 「間違い」+「被る」。

注208 「考え」+「入る」。

注209 「考え」+「終わる」。

注210 「助け」+「与える」。

注211 「魚」+「釣る」。

0800	掛ける	chwé	0826	贈る	hlu
0801	繫ぐ	chá?	0827	受け取る	la? khai <sup>注213</sup>
0802	巻く	loi?	0828	抱く	pha?
0803	編む	thu	0829	担ぐ	tháiŋ
0804	織る	ra?	0830	背負う	pú
0805	縛る	khyoiŋ	0831	運ぶ	rwo?
0806	締めつける	tə_dáiŋ khyoiŋ <sup>注212</sup>	0832	渡る	kú
0807	叩く	kho?	0833	送る	pō
0808	曲がる	ko?	0834	急ぐ	—
0809	曲げる	kho?	0835	帰る	praiŋ lá <sup>注214</sup>
0810	壊す	phya?	0836	到着する	ro?
0811	搗く	thónŋ	0837	通る	lá
0812	挽く	khri	0838	止まる	táiŋ <sup>注215</sup>
0813	破れる	cou?	0839	止める	táiŋ <sup>注216</sup>
0814	破る	chou?	0840	倒れる	lé
0815	割れる	kwé	0841	出す	thou?
0816	刈る	roi?	0842	入れる	θwónŋ
0817	干す	hláiŋ	0843	(もち) 上げる	taŋ
0818	耕す	thwaiŋ	0844	汲む	kyúnŋ
0819	植える	coi?	0845	点火する	cwé
0820	蒔く	kré	0846	消す	θai?
0821	撒く	phráiŋ	0847	塗る	kyaiŋ
0822	分ける	khra?	0848	建てる	lou?
0823	付ける	cha?	0849	飾る	chaŋ
0824	並べる	táiŋ	0850	使う	θúnŋ
0825	配る	wi	0851	頼む	tón_baiŋ khai <sup>注217</sup>
			0852	引き受ける	la? khai <sup>注218</sup>

注212 「しっかり」 + 「縛る」。

注213 「手」 + 「被る」。

注214 「再び」 + 「行く」。

注215 例: ga\_rí táiŋ lə kǎ re. 「車が止まった」

注216 例: ɲa ga\_rí=go táiŋ bə loi? te. 「わたしは車を止めてしまった」

注217 「依頼」 + 「ひろげる」。

注218 「手」 + 「被る」。



0853	決める	coi? khyǎ <sup>注219</sup>	0876	続く	—
0854	許す	a_hrwai?	0877	続ける	—
0855	断る	ŋráŋ	0878	集まる	cǔ
0856	賛成する	hnɔi?_θǎŋ	0879	動かす	hrwǐ
0857	反対する <sup>注220</sup>	mə-hnɔi?_θǎŋ	0880	揺れる	rwé
0858	争う	choiŋ	0881	回る	lē
0859	約束する	cə_gá pǐ <sup>注221</sup>	0882	向く	lē
0860	分かれる	krá	0883	下がる	chánŋ
0861	飽きる	phaŋŋ	0884	生える	pɔ?
0862	成功する	ɔŋ	0885	枯れる	khro?
0863	失敗する	fúŋ	0886	咲く	pwǔŋ
0864	間違える	hmá	0887	生る	θí
0865	(に) なる	phrɔi? <sup>注222</sup>	0888	増える	myá
0866	(事件が) 起きる	phrɔi? <sup>注223</sup>	0889	減る	kyǎ
0867	始まる	cǎ <sup>注224</sup>	0890	臭う	co
0868	始める	cǎ <sup>注225</sup>	0891	光る	tɔ?
0869	終わる	kuŋ	0892	凍る	khé
0870	変る	hle	0893	溶ける	pyo
0871	変える	hlě	0894	治る	kónŋ <sup>注226</sup>
0872	交代する	hle	0895	残る	kyaiŋ
0873	取り換える	hlě	0896	足りる	—
0874	やむ	tǎiŋ	0897	要る	lo <sup>注227</sup>
0875	やめる	phrou?	0898	～させる	ci/ji <sup>注228</sup>

注219 「心」+「落とす」。

注220 「賛成しない」。

注221 「言葉」+「与える」。

注222 例: ŋa chə\_ra phrɔi? pya. 「わたしは教師になった」

注223 例: ŋya=gǎ prǎ\_θə\_na phrɔi? lə khǎ re. 「昨日事故が起こった」

注224 例: de\_θu cǎ lə khǎ bya. 「それは始まった」

注225 例: ŋa cǎ bya. 「わたしは始めた」

注226 「よくなる」。

例: ŋǎ ro\_ga kónŋ bya. 「わたしの病気はよくなった(健康になった、治った)」

注227 例: ŋǎ=ma táŋŋ\_ŋá lo re. 「わたしにはお金が必要である」

注228 例: ŋa ko\_baŋ=go ə\_lou? lou?=ci khyan re. 「わたしはあなたに仕事をさせたい」

ŋa ko\_baŋ=go de\_θə\_dǎŋ θi=ji khyan re. 「わたしはあなたにこのニュースを知らせたい」

0899	～したい	khyan <sup>注229</sup>	0926	やかましい	kro
0900	～される	— <sup>注230</sup>	0927	危ない	kro?-kón= thə_máin
0901	深い	na?	0928	忙しい	jou?
0902	浅い	tiŋ	0929	早い	yan
0903	太い	tou?	0930	遅い	kra
0904	細い	kruŋ	0931	眠い	oi? khyan <sup>注233</sup>
0905	細かい	poi?	0932	痒い	phro?
0906	粗い	krá	0933	清潔な	rwé
0907	濃い	thai?	0934	醜い	chú
0908	淡い	re	0935	恥ずかしい	hra?
0909	すっぱい	khyoin	0936	厭な	hra?-kón= thə_máin
0910	くさい	co	0937	かわいい	hlă
0911	おいしい	kón			pă
0912	まずい	mə-kón <sup>注231</sup>	0938	かわいそう	θə_ná-gón= thə_máin
0913	生の	cíŋ			coi?
0914	空っぽの	khwaiŋ	0939	正直な	—
0915	四角い	lé-thōŋ lé-bra?	0940	優しい	θə_ná=nă <sup>注234</sup>
0916	平たい	ŋiŋ	0941	親切	tóŋ
0917	曲がった	ko?	0942	丈夫な	ŋyoin=fan
0918	安い	taiŋ	0943	賢い	mə_ha
0919	高い	kha?	0944	偉い	ma
0920	富んだ	—	0945	上手	ŋyó
0921	貧しい	cháŋ_ré	0946	下手	rwe
0922	面白い	kón <sup>注232</sup>	0947	容易な	kha?
0923	楽しい	pyo	0948	困難な	
0924	涼しい	í			
0925	静かな	choi?			

注229 例: ɲa cá khyan re. 「わたしは食べたい」

注230 マルマ語に受動態はない。しかし khaiŋ 「苦しむ・被る」をもちいて受身的な表現をすることは可能である。その際、khaiŋ には名詞化した動詞が先行する。

例: yáŋ-θu ə-θi khaiŋ re. 「あの人は死んだ(死を被った)」

注231 「よくない」。

注232 「よい」。

注233 「眠る」+「～したい」。

注234 「同情」+「～とともに」。

0949	普通の	ə-jɔŋ	0966	また	praiŋ=bo
0950	重要な	ə-phú daiŋ <sup>注235</sup>	0967	まだ	θi <sup>注241</sup>
0951	最も	ə-CV=chúŋ <sup>注236</sup>	0968	すでに	de-thé=ma <sup>注242</sup>
0952	ある	— <sup>注237</sup>	0969	おはよう	hri khú ba yă <sup>注243</sup>
0953	このような	e-poiŋ <sup>注238</sup>	0970	おやすみ	—
0954	そのような	the-poiŋ	0971	こんばんは	—
0955	どの	ja-ca	0972	どうぞ	—
0956	どのような	ja-poiŋ <sup>注239</sup>	0973	ごめんなさい	khwo hrwai? pa
0957	特に	ə-thú_θa-phráŋ	0974	よろしい	hou? te
0958	本当に	coi?_coi?	0975	おめでとう	—
0959	ちょうど	thoi?	0976	そうして	de-poiŋ lou? phǒ
0960	全然	kuŋ=yɔŋ	0977	それから	yán ə-prou?
0961	必ず	phroi?=yɔŋ	0978	それゆえ	yán ə-two?
0962	すぐに	kón-gón	0979	なぜなら	ə-krón
		mə-kra <sup>注240</sup>	0980	しかし	dǒ-do <sup>注244</sup>
0963	ゆっくり	f=rǒ	0981	あるいは	mə-hou? kə <sup>注245</sup>
0964	ときどき	tə_kha-tə-ri	0982	(する) ときに	kha <sup>注246</sup>
0965	たびたび	kha-dóŋ			

注235 「価値」+「合う」。

注236 例: də\_gá báŋ\_gə\_lá-pre=ma ə-grí=chúŋ mrǒ. 「ダカはバングラデシュで一番大きい町です」

注237 助数詞の tə「一」をつけてあらわす。

例: tə-ra? 「ある日」。

注238 例: e-poiŋ lu ŋa kón=yɔŋ mə-twí. 「このような人はわたしに気にいらぬ」

注239 例: ja-poiŋ jai? lu ko\_baŋ kón=yɔŋ twí re lé. 「どのような人があなたに気に入りますか」

注240 「とても」+「遅くなく」

注241 例: yán-θu de-gǔ lé mə\_la θí. 「彼は今もまだ来ていない」

注242 「そうこうするうちに」。

例: yán-θu de-thé=ma la bya. 「彼はそうこうするうちに来た」

注243 もっとも一般的な挨拶のことば。

注244 例: ŋa ə-pó dǒ-do<sup>注244</sup> lé mə\_rə\_ma ba\_θa θaŋ khyay re. 「わたしはバカだけれどもマルマ語を学びたい」

注245 例: ŋa mə\_rə\_ma ba\_θa mə-hou? kə<sup>注245</sup> lé ca? ba\_θa θaŋ khyay re. 「わたしはマルマ語がチャック語を学びたい」

注246 例: ŋə=rǒ ca-phai? niŋ kha, chə\_loi? mə-θo? rá. 「わたしたちが勉強しているときは、タバコを吸えません」

0983	(より) まえに	ə-yaŋ=gǎ <sup>注247</sup>	0992	なしに	mə-hou?-poiŋ <sup>注255</sup>
0984	(の) 周りに	naŋ-bráŋ= ma <sup>注248</sup>	0993	など	ə-myú-myú <sup>注256</sup>
0985	(の) ほうへ	phra?=tǒ <sup>注249</sup>	0994	ほど	hlo? <sup>注257</sup>
0986	(の) なかに	ə-thé=ma <sup>注250</sup>	0995	だけ	hu_dá <sup>注258</sup>
0987	(の) かわりに	ta?_cá <sup>注251</sup>	0996	の	— <sup>注259</sup>
0988	(の) ために	ə-two? <sup>注252</sup>	0997	へ、に	ko/go <sup>注260</sup>
0989	(に) 関して	ə-krón <sup>注253</sup>	0998	から	kǎ/gǎ <sup>注261</sup>
0990	(に) よって	nǎ	0999	まで	ə-chi <sup>注262</sup>
0991	で (手段)	nǎ <sup>注254</sup>	1000	より (も)	tha? <sup>注263</sup>

注247 例: ɲa ma\_rə\_ma ba\_θa θaŋ phǒ ə-yaŋ=gǎ ca? ba\_θa θaŋ li re. 「わたしはマルマ語を学ぶまえにチャック語を学んでいました」

注248 例: ma\_rə\_ma naŋ-bráŋ=ma ko\_lá lé niŋ re. 「マルマ人のまわりにバングラ人もすんでいる」

注249 例: ɲǎ=phra?=tǒ lə lai?. 「わたしのほうに来なさい」

注250 例: wiŋ ə-thé=ma lé khraŋ hiŋ re. 「家の中にも蚊がいる」

注251 例: ɲa fwe=ta?\_cá θaiŋ θúŋ phǒ. 「わたしは金のかわりに鉄をつかおう」

注252 例: ɲa ko\_baŋ=ə-two? ma\_rə\_ma ba\_θa θaŋ re. 「わたしはあなたのためにマルマ語を教える」(まったくおなじ文で「わたしはあなたのためにマルマ語を学びます」という意味にもなりうる)

注253 例: ɲa de ə-krón=go mə-θí. 「わたしはこれについて知らない」

注254 例: ɲa ə-la?=nǎ θə\_món cá re. 「わたしは手でご飯を食べる」

注255 例: ɲa ko\_baŋ=nǎ mə-hou?-poiŋ mə-hraŋ hnoŋ. 「わたしはあなたなしでは生きていけない」

注256 例: báŋ-gə\_lá-pre=ma tə-buŋ-grí ə-yaŋ=gǎ lu-myú hiŋ re: ma\_rə\_ma, θa?, mruŋ, ə-myú-myú. 「バングラデシュにはたくさんの先住民がいます。マルマ人、チャクマ人、トリブラ人などです」

注257 例: ɲǎ=bón\_ma che-lúŋ hlo? bé-ǔ hiŋ re. 「わたしのところには十個ほどアヒルの卵があります」

注258 例: ɲǎ=bón\_ma hu\_dá che-lúŋ bé-ǔ hiŋ re. 「わたしのところには十個だけアヒルの卵があります」

注259 単音節で低声調の代名詞は上昇調になる。

例: ɲa 「わたし」 — ɲǎ 「わたしの」。

注260 例: ɲa de khwí=go θai? pya. 「わたしはこの犬を殺した」

注261 例: ɲa də\_gá=gǎ la ca. 「わたしはダカから来ました」

注262 例: ɲa də\_gá=ə-chi praiŋ=bo lá bya. 「わたしはまたダカまで行きました」

注263 例: ɲa ko\_lá=go=tha? ma\_rə\_ma=go khyoi? te. 「わたしはバングラ人よりもマルマ人のほうが好きです」

## 参考文献

### 【日本語文献】

- おのの とおる 大野 徹. 1969. 「ビルマ語方言の研究 (1) 南西方言」、『大阪外国語大学学報』22、81-106.
- おのの とおる 大野 徹. 2000. 『ビルマ (ミャンマー) 語辞典』大学書林.
- とうきようがいこくご だいがく 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所編. 1966. 『アジア・アフリカ言語調査票 上』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- はらだまさはる おのの とおる 原田正春・大野 徹 (共編). 1979. 『ビルマ語辞典』日本ビルマ文化協会.
- ふじわらけいすけ 藤原敬介. 2002. 「チャック語の音声に関する考察」、『京都大学言語学研究』第21号、217-273.
- やまぎ つかし 八木 毅. 1964. 「チャクマ族の言語とマルマ・ムロ語彙三題」、天野利武編『チッタゴン地方の丘陵人—東パキスタン総合学術調査隊報告書』大阪大学、83-122.
- やぶ しろう 藪 司郎. 1980. 「ビルマ語ヨー方言の資料」、『アジア・アフリカ言語文化研究』第19号、165-182.
- やぶ しろう 藪 司郎. 1981. 「ビルマ語タウンヨウ方言の資料」、『アジア・アフリカ言語文化研究』第21号、154-187.
- やぶ しろう 藪 司郎. 1993. 「マルマ語」、亀井 孝・河野六郎・千野栄一編『言語学大辞典 第5巻【補遺・言語名索引編】』三省堂、346-348.

### 【バングラ語文献】

- চাকমা, সুগত. 1984<sup>2</sup>. (CHAKMA, Sugata) মারমা ভাষা শিক্ষার প্রথম পাঠ—রাঙামাটি: উপজাতীয় সাংস্কৃতিক ইনস্টিটিউট.
- প্র. এস. এ. 1990. (PRU, S. A.) মারমা ভাষার প্রথম পাঠ—বান্দরবান: উপজাতীয় সাংস্কৃতিক ইনস্টিটিউট.
- প্র. এস. এ. 1993. (PRU, S. A.) উপজাতীয় সংগীত পুস্তিকা, প্রথম খণ্ড, মারমা গান—এক—বান্দরবান: উপজাতীয় সাংস্কৃতিক ইনস্টিটিউট.

### 【その他の言語の文献】

- BBS(Bangladesh Bureau of Statistics) (ed.) 2002. *Statistical Pocketbook of Bangladesh 2000*. Statistic Division, Ministry of Planning, Government of the People's Republic of Bangladesh<sup>注264</sup>.
- BERNOT, Denise. 1958. Rapports phonétiques entre le dialecte marma et le birman. *Bulletin de la société de linguistique de Paris*, Tome 53, 273-294.

<sup>注264</sup> この資料における人口統計はBBSによる *Population Census 1991* にもとづいている。

- BERNOT, Denise. 1965. The vowel system of Arakanese and Tavoyan. *Lingua* 15, 463-474.
- BERNOT, Denise. 1966. «Êtes-vous fâchée, Belle-Mère?», Conte Marma. En BA SHIN et al. (eds.), *Papers on Asian History, Religion, Languages, Literature, Music Folklore, and Anthropology: Essays offered to G. H. Luce by his colleagues and friends in honour of his seventy-fifth birthday*, vol. I, 59-66. Ascona, Switzerland: Artibus Asiæ Publishers.
- BERNOT, Denise & Lucien BERNOT. 1958. *Les Khyang des collines de Chittagong (Pakistan oriental): Matériaux pour l'étude linguistique des Chin*. Paris: Librairie Plon.
- BERNOT, Lucien. 1966. Eléments de vocabulaire Cak recueilli dans le Pakistan Oriental. En BA SHIN et al. (eds.), *Papers on Asian History, Religion, Languages, Literature, Music Folklore, and Anthropology: Essays offered to G. H. Luce by his colleagues and friends in honour of his seventy-fifth birthday*, vol. I, 67-91. Ascona, Switzerland: Artibus Asiæ Publishers.
- BERNOT, Lucien. 1967a. *Les paysans arakanais du Pakistan oriental: l'histoire, le monde végétal et l'organisation sociale des réfugiés Marma (Mog)*. 2 volumes. Paris: Mouton & Co.
- BERNOT, Lucien. 1967b. *Les Cak: Contribution à l'étude ethnographique d'une population de langue loi*. Paris: Éditions du Centre National de la Recherche Scientifique.
- BUCHANAN, Francis. 1799. A comparative Vocabulary of some of the Languages spoken in the Burma Empire. *Asiatick Researches* V, 219-240.
- DAVIDS, T. W. Rhys and William STEDE. 1921-1925. *Pali-English Dictionary*. Repr. Delhi 1997: Motilal Banarsidass.
- GRIMES, Barbara F. (ed.) 2003. *Ethnologue: Languages of the World (14th Edition, Internet Version)*. SIL International.  
<http://www.ethnologue.com/>
- KAUFFMANN, Hans E. und Lorenz G. LÖFFLER. 1959. Spiele der Marma (Chittagong Hill Tracts, Ostpakistan). *Zeitschrift für Ethnologie*, Band 84, 238-253.
- KONOW, Sten. 1903. Notes on the Maghī dialect of the Chittagong Hill Tracts. *Zeitschrift der Deutschen Morgenländischen Gesellschaft*, Bd. 57, 1-12.
- LÖFFLER, Lorenz G. 1959. Ein Kinderspielvers der Marma und seine Parallelen bei den Mru. *Zeitschrift für Ethnologie*, Band 84, 254-256.

- LUCE, G. H. 1981. *A Comparative Word-List of Old Burmese, Chinese and Tibetan*.  
London: School of Oriental and African Studies, University of London.
- MATISOFF, James A. (ed.) 1996. *Languages and Dialects of Tibeto-Burman*,  
STEDT Monograph Series No. 2. Berkeley: Sino-Tibetan Etymological Dic-  
tionary and Thesaurus Project, Center for South and Southeast Asia Studies,  
University of California.
- OKELL, John. 1995. Three Burmese dialects. In David BRADLEY (ed.), *Studies  
in Burmese languages*, Papers in Southeast Asian Linguistics No. 13, 1-138.  
Canberra: Department of Linguistics, Research School of Pacific Studies, the  
Australian National University.
- SHAFFER, Robert. 1966. *Introduction to Sino-Tibetan*. Part 1. Wiesbaden: Otto  
Harrassowitz.
- SOARES, Anthony Xavier. 1936. *Portuguese Vocables in Asiatic Languages*.  
Baroda: Oriental Institute. (From the Portuguese original of Monsignor Sebastião  
Rodolfo Dalgado. Translated into English with notes, additions and comments.)  
Repr. New Delhi/Madras 1988: Asian Educational Services.

(附記)

本稿は財団法人松下国際財団・2001年度松下アジアスカラシップ(研究テーマ:「チャ  
クマ語の記述的研究—共時態から通時態へ—」)による研究成果の一部である。

# マルマ語の音声に関する考察 (Maruma-go no onsē ni kansuru kōsatu)

藤原 敬介

HUZIWARA Keisuke

## 要旨

マルマ語はバングラデシュ人民共和国チッタゴン丘陵でマルマ人によって話されている言語である。マルマ語はビルマ語アラカン方言とちかい関係にあり、系統的にはチベット・ビルマ語派、ビルマ語群に分類される。1991年の統計によると話者数は155000人ほどである。

本稿ではマルマ語の音声に観察される特徴を記述し、音韻論的に分析した。その結果、マルマ語には分節音素として/p, ph, b, t, th, d, c, ch, j, k, kh, g, ʔ(末子音としてのみ), θ, ʃ, h, m, hm, n, hn, ŋ, hŋ, l, hl, r, hr, w, y; i, e, a, ɔ, o, u, ə/があることがわかった。声調には低調、高調、上昇調の三種類が弁別的であるほか、音韻論的に予測可能な高抑調と軽声があることがわかった。

ビルマ文語との対応をみると、マルマ語は母音や末子音についてはおおきな変化をとげたものの、頭子音についてはビルマ語のよりふるい形式をよくのこしていることがあきらかとなった。

(受理日 2003 年 7 月 18 日 最終原稿受理日 2003 年 12 月 15 日)